

八尾の古墳 – 高安山麓の古墳 –



令和4年3月19日（土）

八尾市 魅力創造部 観光・文化財課 藤井淳弘

【本日の講座の内容】

「高安山麓は古墳のテーマパーク」

▶ 4世紀：古墳時代前期

①前方後円墳を築造し続けた古墳群　－楽音寺・大竹古墳群－

▶ 5世紀：古墳時代中期

②北・中河内最大の前方後円墳　－心合寺山古墳－

▶ 6世紀：古墳時代後期

③中河内最後の前方後円墳　－郡川西塚・東塚古墳－

④河内平野をのぞむ大型群集墳　－高安千塚古墳群－

⑤大阪府下最大級の横穴式石室　－愛宕塚古墳－

八尾の古墳時代

日本の歴史

各時代の埋葬の方法

八尾の歴史

じょうもん
縄文時代

やよい
弥生時代

こふん
古墳時代

あすか
飛鳥時代

なら
奈良時代

へいあん
平安時代

かまくら
鎌倉時代

むらまち
室町時代

あづち もちやま
安土・桃山時代

えど
江戸時代

239年 卑弥呼、魏へ使い

421年～
倭の五王の時代

645年 大化の改新

710年 平城遷都

794年 平安遷都

1192年 鎌倉幕府

1336年 室町幕府

1467年 応仁の乱

1603年 江戸時代

1615年 大阪夏の陣

3世紀

- 239年、邪馬台国の女王、卑弥呼が中国（魏）に使いを送る

4世紀

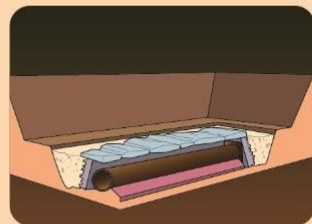
- 大和（奈良県）を中心に巨大な前方後円墳が造られる
- 大和政権を中心とした国づくりが進む

5世紀

- 朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新技術が伝わる
- 河内にも巨大な前方後円墳が造られる
- 421年、倭王の讃が中国（宋）に使いを送る
- 応神陵古墳（425m 前方後円墳）
- 大山（仁徳陵）古墳（486m 前方後円墳）
- 478年、倭王の武が中国（宋）に使いを送る

6世紀

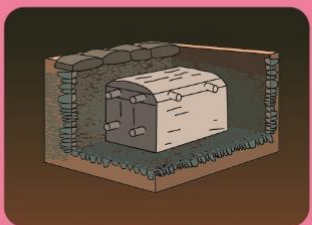
- 近畿地方でも横穴式石室古墳開始
- 538年、百済から仏教が伝わる
- 小古墳が集った群集墳の盛行
- 587年、蘇我馬子・厩戸皇子（聖徳太子）らが物部守屋を滅ぼす



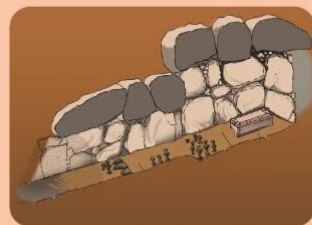
竪穴式石室に割竹型木棺を納める。
(和田晴吾氏原図による)



粘土槨（粘土にくるまれた木棺）を竪穴の墓壇に納める。



竪穴式石室に長持形石棺を納める。



横穴式石室に家形石棺を納める。

- 久宝寺・東郷・中田遺跡等で大集落が出現

- 平野部に美園古墳・萱振1号墳・久宝寺に前方後方墳・方墳群等造られる

- 前の時代の地域首長墓が造られる

- 向山古墳（55m 前方後円墳）

- 西ノ山古墳（55m 前方後円墳）

- 花岡山古墳（73m 前方後円墳）



中河内最大の前方後円墳

- 心合寺山古墳（160m 前方後円墳）



- 鏡塚古墳

（28m 円墳もしくは 30m以上 前方後円墳）

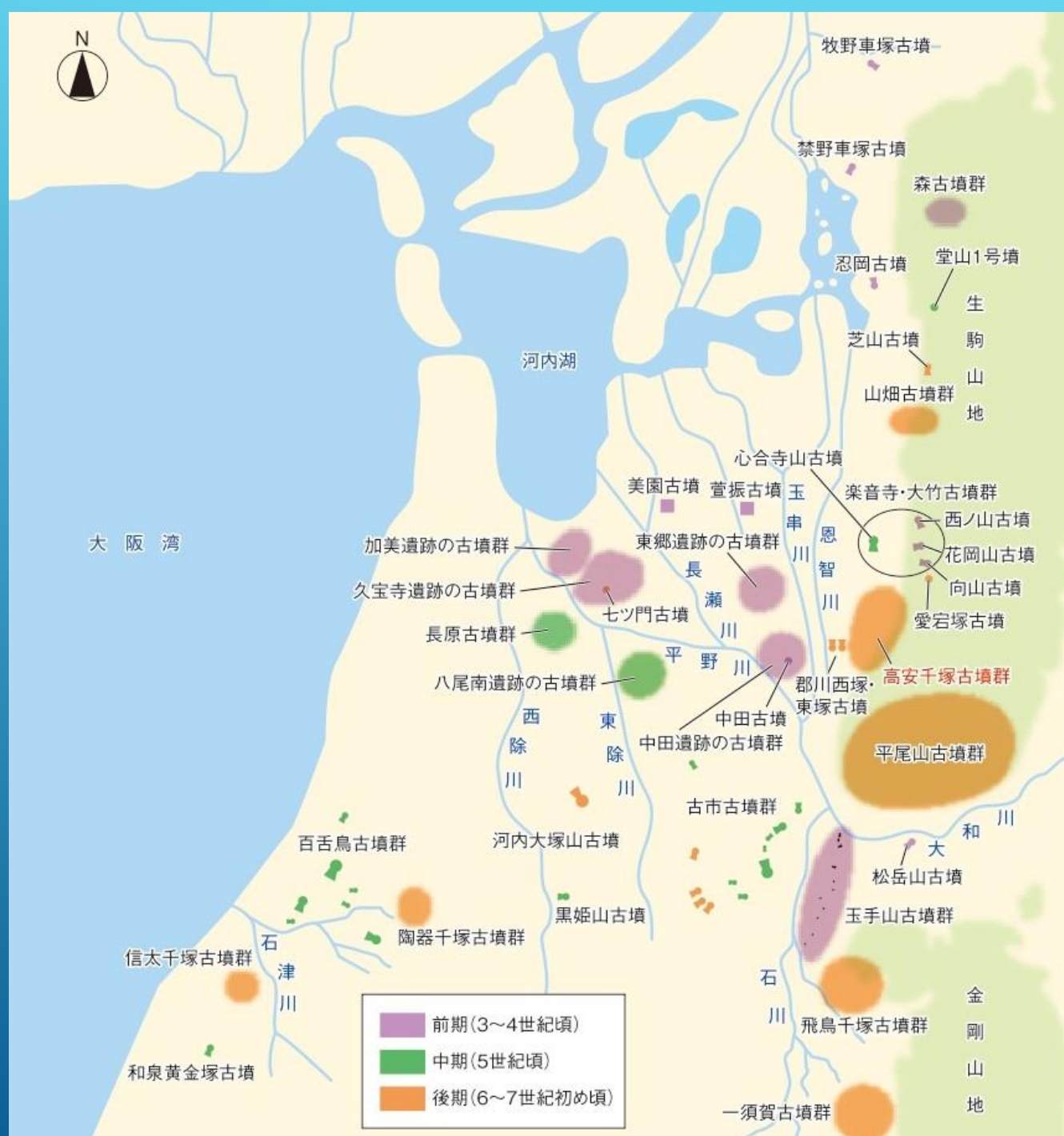
- 郡川西塚古墳（60m 前方後円墳）

- 郡川東塚古墳（60m 前方後円墳）

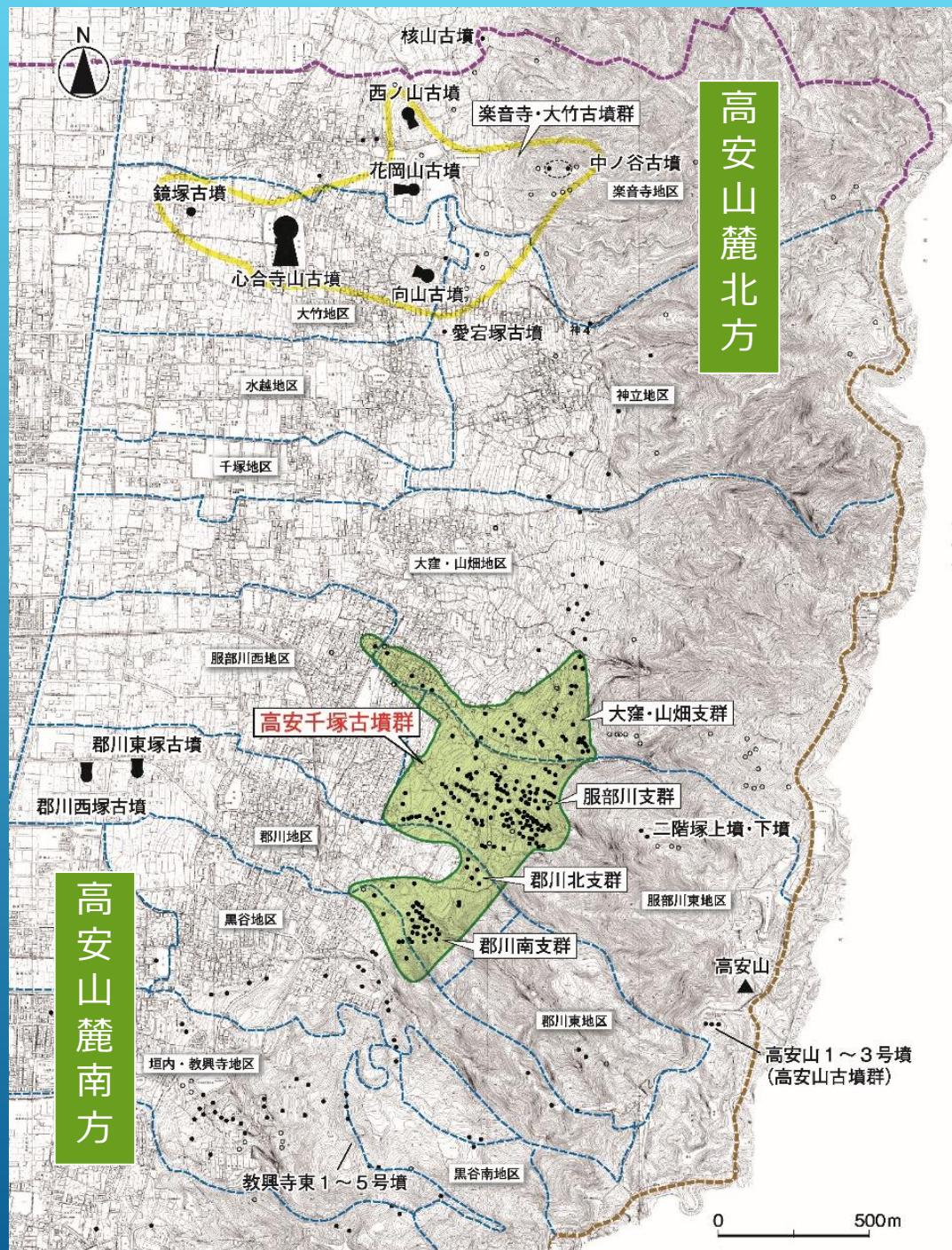
- 「高安千塚」盛行（220基以上の横穴式石室）

- 愛宕塚古墳（府下最大の横穴式石室）

河内平野を取り巻く古墳



高安山麓の古墳





十三峠
水呑地蔵

信貴生駒スカイライン

高安山レーダー
高安山1~3号墳

高安山駅

近鉄西信貴ケーブル

たまのおやじんじやうらこふん
玉祖神社裏古墳
たまのおや
玉祖神社

市史跡 大窪・山畑 8号墳
市史跡 大窪・山畑 7号墳 (抜塚)

にかいづかじやうふん
二階塚上墳
にかいづかかふん
二階塚下墳

こうたち
神立おんぢ山古墳

芝塚古墳
芝塚2号墳
ドルメン古墳

にじつづかこふん
二室塚古墳

なかのたにこふん
中ノ谷古墳

さねやまこふん
核山古墳

あたごづかこふん
愛宕塚古墳

おおくぼ やまたけ
大窪・山畑 29号墳
服部川 132号墳

市史跡 開山塚古墳 (郡川1号墳)
市史跡 郡川4号墳

にしじのやまこふん
西ノ山古墳

はなおかやまこふん
花岡山古墳 (消失)
むかいやまこふん
向山古墳

しゆんとくまるかがみづかこふん
俊徳丸鏡塚古墳
ちやうじやのほしづかこふん
長者の箸塚古墳 (消失)

市史跡 郡川2号墳
市史跡 郡川16号墳
こうごにしつづかこふん
交互二室塚古墳

大石古墳 (消失)
楽音寺8号墳 (消失)
楽音寺・大竹古墳群

高安千塚古墳群

八尾市立歴史民俗資料館

けんへえづかこふん
源兵衛塚古墳

近鉄服部川駅

近鉄信貴線

信貴山口駅

しおんじやまこふん
心合寺山古墳
八尾市立しおんじやま古墳学習館

信貴霊園内古墳
黒谷10号墳 (消失)
黒谷11号墳 (消失)
黒谷12号墳 (消失)

府史跡 鏡塚古墳

かせち きやうこうじ
垣内・教興寺1~3号墳

寺池1号墳
(教興寺西2号墳)

旧国道170号
(東高野街道)

こおりがわひがしづかこふん
郡川東塚古墳 (消失)

こおりがわにしづかこふん
郡川西塚古墳

つかもとづかこふん
塚本塚古墳

高安山麓の古墳の分布

①前方後円墳を築造し続けた古墳群 －楽音寺・大竹古墳群－

前期：全長50m前後の3つの前方後円墳

中期：全長160mの心合寺山古墳

後期：鏡塚古墳（直径30mの円墳？）



高安山麓北方



②北・中河内最大の前方後円墳 －心合寺山古墳－



百舌鳥・古市古墳群と同じ時期の前方後円墳

[史跡整備の経過]

昭和41年2月25日 国史跡指定

平成4～14年度：発掘調査

平成14～16年度：史跡整備

平成17年度：

古墳の一般公開・八尾市立しおんじやま古墳学習館の開館

[心合寺山古墳の整備の特徴]

- ・造られた当時の前方後円墳（全長160m：府下19位）の姿（葺石や埴輪列）が分かり、墳丘の上にあがることができる。



※全国の復元された古墳では神戸市五色塚古墳（全長194m）に次ぐ大きさ

心合寺山古墳の円筒埴輪(えんとうはにわ)

埴輪には、墳丘に立てならべられた円筒埴輪や朝顔形埴輪、いろいろなかたちをした**形象埴輪**があります。

約3000本もの円筒埴輪を墳丘各段の平坦面にすき間なく立てならべていました。朝顔形埴輪や大型円筒埴輪と組み合わせて規則正しく**配列**され、墳丘をかざっていました。

前方部 墳頂平坦面 (西側)

配列パターン



方形壇をかこむ埴輪列が、後円部へと続いています。15本を単位として、列中に朝顔形埴輪が配置されています。埴輪列の外側に、約4.5mおきに**蓋形埴輪**のをせた大型円筒埴輪が配置されていました。



上空からみた埴輪列(第6次)



埴輪列の出土状況(北から・第6次)



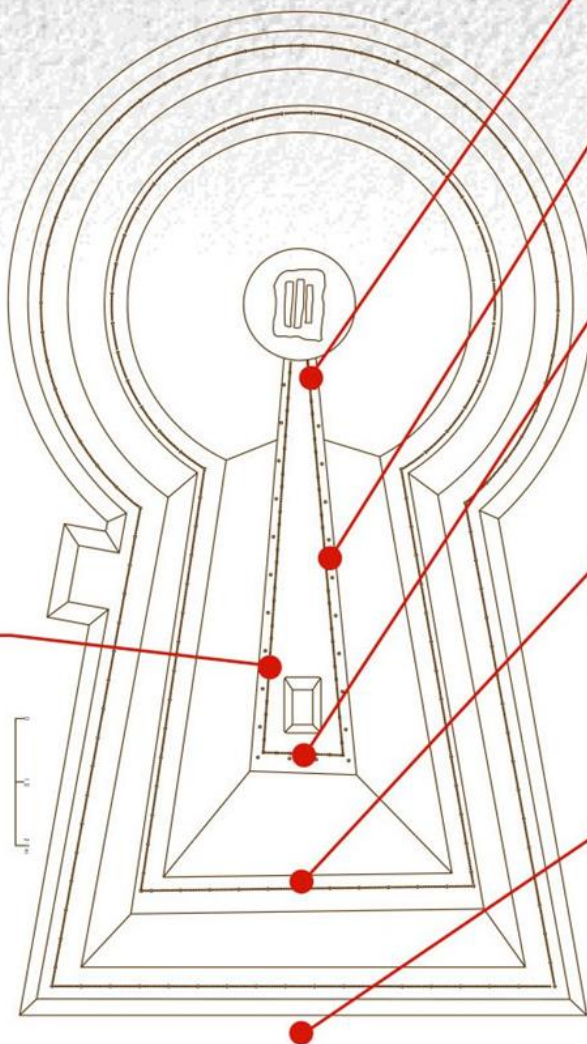
後円部へ続く埴輪列(南から・第6次)



大型円筒埴輪と蓋形埴輪(西から・第6次)



朝顔形埴輪の出土状況(東から・第6次)



前方部 墳頂平坦面 (東側)

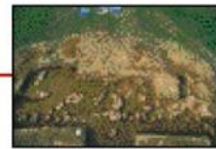
配列パターン
(前方部南側)



大型円筒埴輪の出土状況(南から・第7次)



南北方向の埴輪列(南から・第8次)



前方部南端の埴輪列(南から・第1次)

南北埴輪列の対称位置に埴輪が確認でき、台形のかたちに円筒埴輪が立てならべられていたことがわかりました。

どこに円筒埴輪がおかれていたのかな?



前方部 中段平坦面



埴輪列の検出状況(東から・昭和63年調査)

東西方向に14個の円筒埴輪を確認しましたが、配列パターンはわかりませんでした。

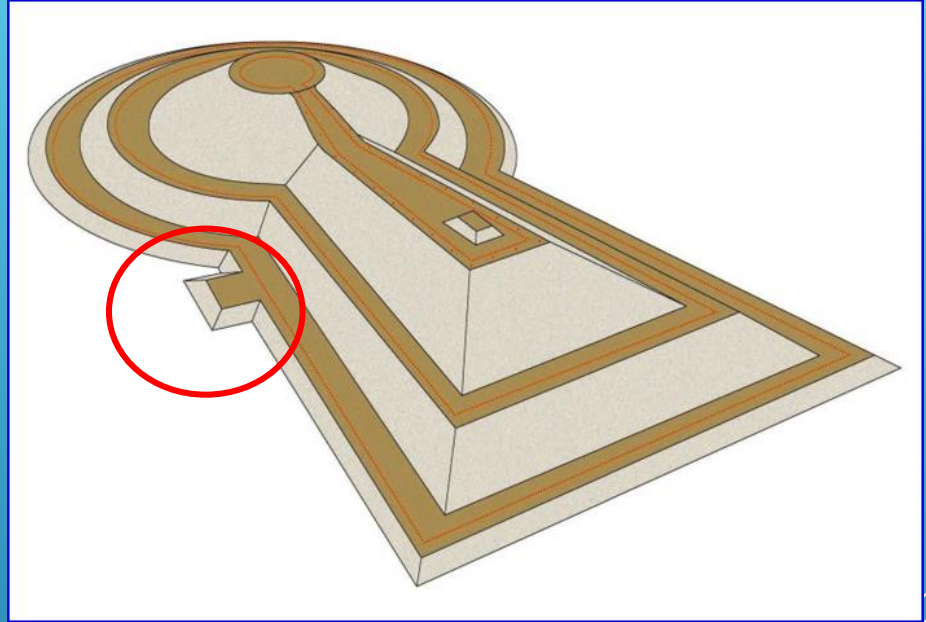
前方部 下段平坦面



単独で置かれた円筒埴輪(南から・第8次)

前方部南端の**基礎石**から約3.5m南に円筒埴輪が1本だけ置かれていました。何のために置かれた埴輪でしょうか。

一墳丘施設：造り出しー



水の祭祀場を表した埴輪



—埋葬施設—

- 後円部：3人の被葬者

墓壇（ぼこう（埋葬施設を納めるための穴：東西7.5m・南北11m）の中に等間隔に並んだ長さの異なる3つの「**粘土槨**（ねんどかく）※」

※木棺を粘土で覆った埋葬施設

調査前は「長持形石棺」と考えられていた。

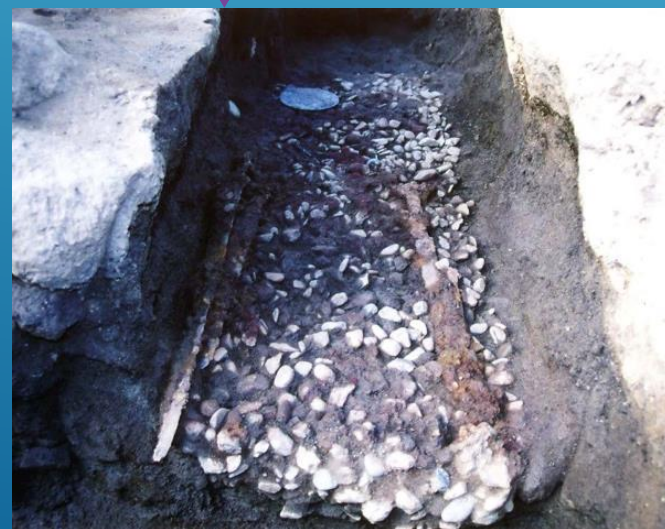
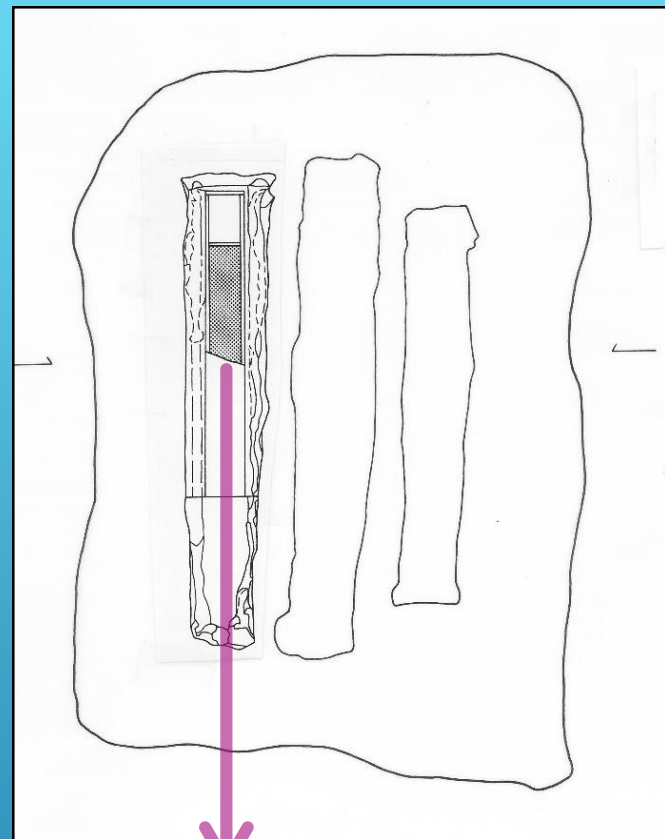
中央槨（全長7.7m）

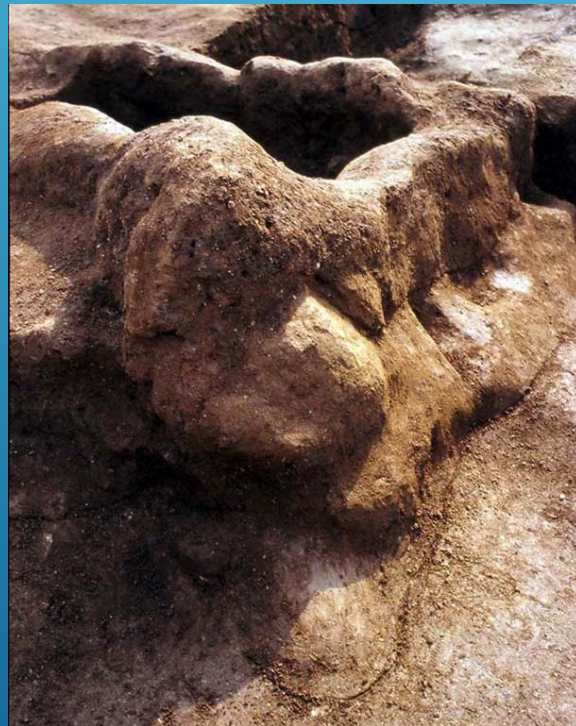
西槨（全長7.3m）：一部調査

東槨（全長6m）

- ▲前方部：1人の被葬者

方形壇の下の「木棺」





心合寺山古墳の粘土槨

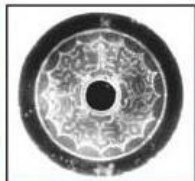
— 西槨の副葬品 —



き鳳鏡

き鳳鏡 —ひかりかがやく鏡—

弥生時代以来、鏡はまつりに必要な道具として貴重なものでした。中国の後漢から魏晋(3世紀代)の時代につくられた青銅鏡です。弥生時代後期から古墳時代前期にかけて、西日本を中心に九州地方から瀬戸内海沿岸の遺跡や古墳で出土しています。



X線写真



三葉環頭大刀 —かざられた刀—

単なる武器ではなく、持ち主の身分を象徴するものでした。柄の先の環頭のかたちが特徴です。三葉環頭大刀の中でも古く、古墳時代前期から中期の前方後円墳でわずかにみられる鉄刀です。中国大陸や朝鮮半島との交渉で手に入れたものでしょう。



三葉環頭大刀



X線写真



心合寺山古墳に
葬られていた4人は、
どんな人たち
だったのかな？



甲冑 —黒い鉄のよろいとかぶと—

すぐれた武器や武具は力の象徴となりました。三角形の鉄板を革ひもで綴じあわせた「三角板革綴短甲(よろい)」と「三角板革綴衝角付冑(かぶと)」という武具をもっていました。この黒い甲冑を身に着け、戦いの場でかつやくしたのでしょ。



復元された甲冑



三角板革綴衝角付冑



<びを守る「綴(しころ)」



三角板革綴短甲(前胴)



三角板革綴短甲(後胴)



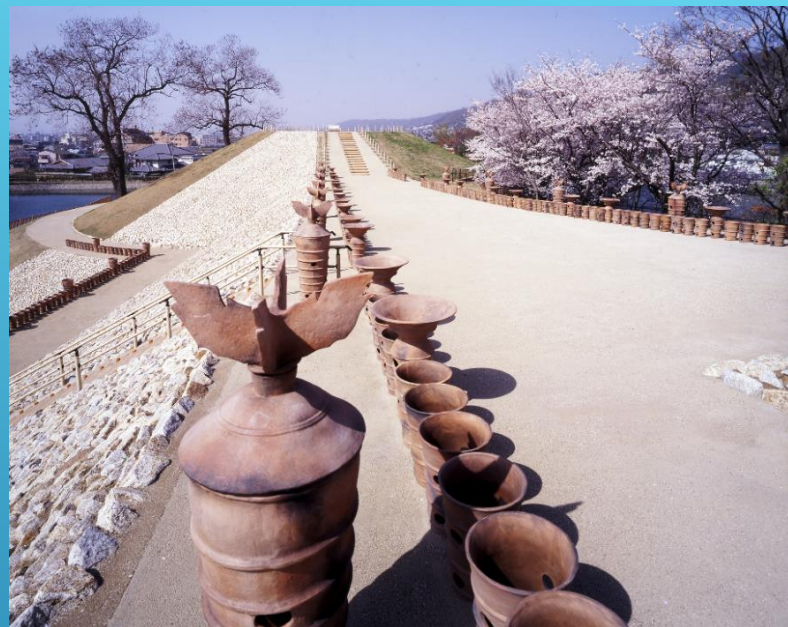
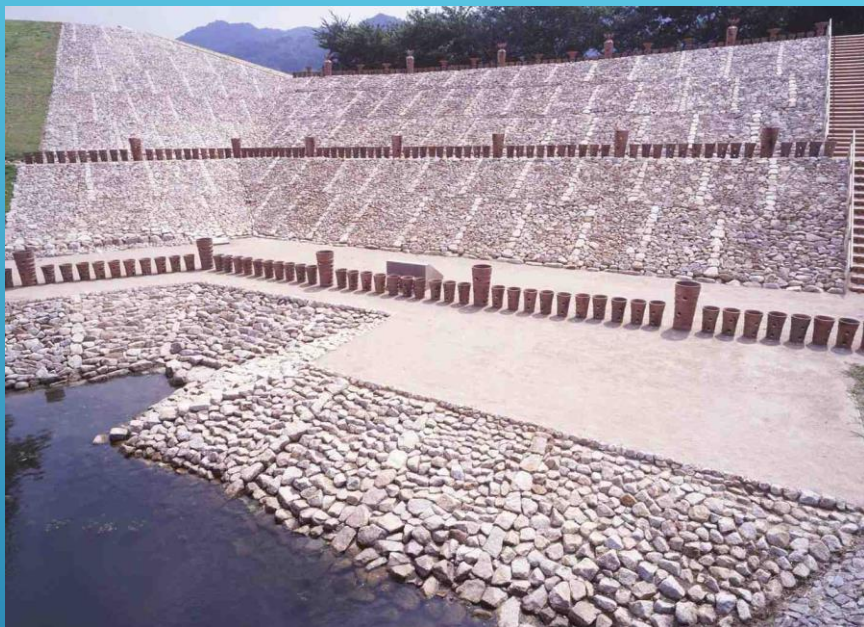
心合寺山古墳のうつり変わり



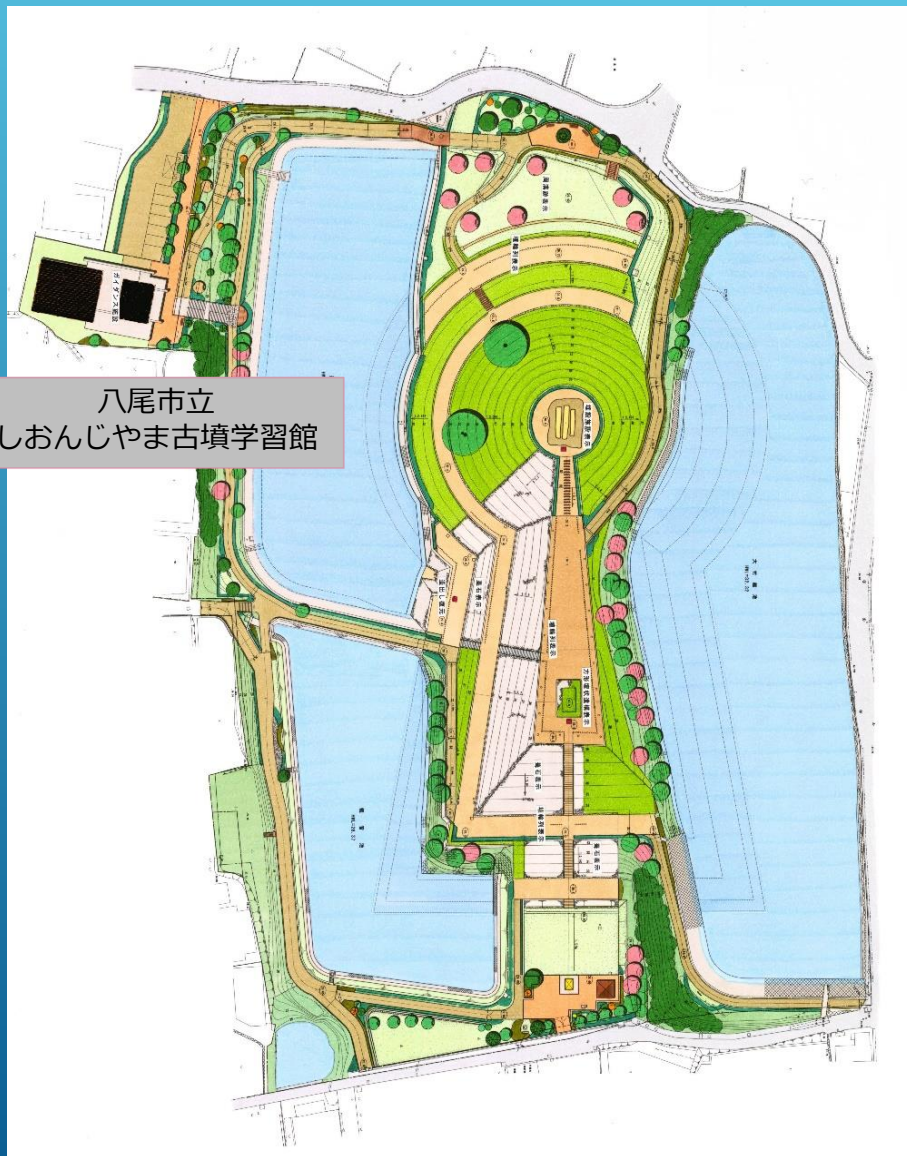
—前方後円墳の復元 1—



— 前方後円墳の復元 2 —



心合寺山古墳の活用拠点



八尾市立
しおんじやま古墳学習館



心合寺山古墳のガイダンス施設である
八尾市立しおんじやま古墳学習館の指
定管理者による古墳の活用

平成17年度（2005）開館～現在
指定管理者：特定非営利活動法人歴史
体験サポートセンター楽古

指定管理者によるユニークな古墳の活用

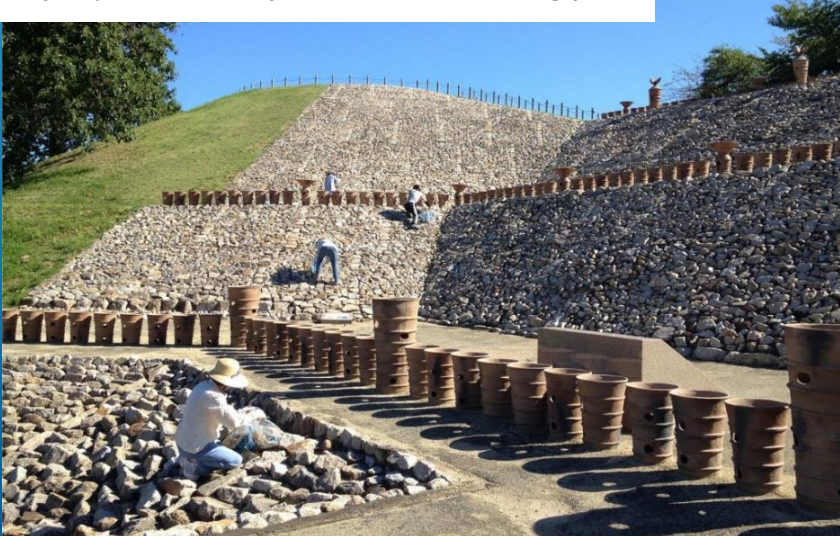
古墳をキャラクターが案内



インターネットによる講座配信



市民ボランティアによる古墳の掃除



しおんじやま特製 **新しい八尾名物!**

古墳懐石弁当

馬形ハニワの煮物

前方後円墳ごはん



三種の神器

円筒埴輪ごはん

問合せ・申込：八尾市立しおんじやま古墳学習館

古墳懐石弁当の開発

14



「八尾市立しおんじやま古墳学習館」と八尾の名店「懐石料理 祐和」のコラボで誕生! 古墳をモチーフにしたごはんやおかずが満載! 味も最高! 古墳見学、富安山周辺のハイキングのお供にピッタリ!!

価格 1個 1200円 (税込)

注文は、10個以上から承ります。また3週間前までに申し込みください。

百舌鳥・古市古墳群とのつながり

百舌鳥・古市古墳群と共通する最新の技法で作られた円筒埴輪



野焼きで作られた円筒埴輪だが、外面の調整はB c 種ヨコハケ
(同時期の古市古墳群では埴輪窯で焼かれた埴輪が導入)

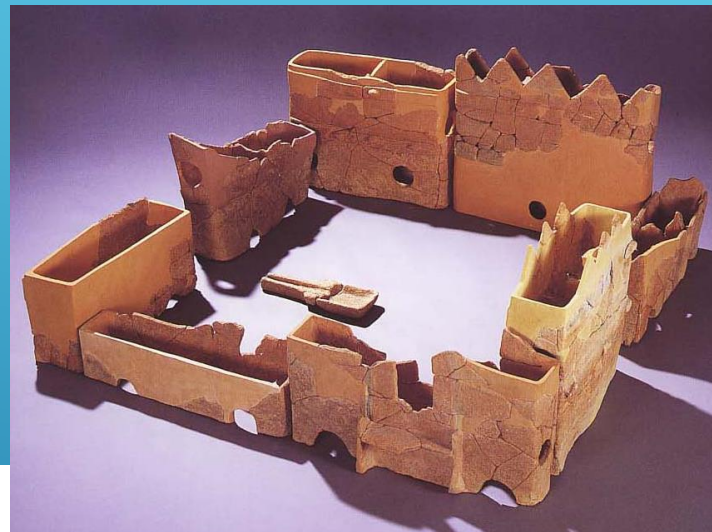
共通する埴輪祭祀

▶ 冢形埴輪と家形埴輪による祭祀場の再現

心合寺山古墳と狼塚古墳（応神陵古墳陪塚）、御廟山古墳（百舌鳥古墳群）



心合寺山古墳



狼塚古墳

御廟山古墳

「百舌鳥・古市古墳群」の時代

○墳丘規模(全長160m)に示された評価
「北・中河内最大の前方後円墳」
＝前期から続いた高安山麓の最盛期を象徴

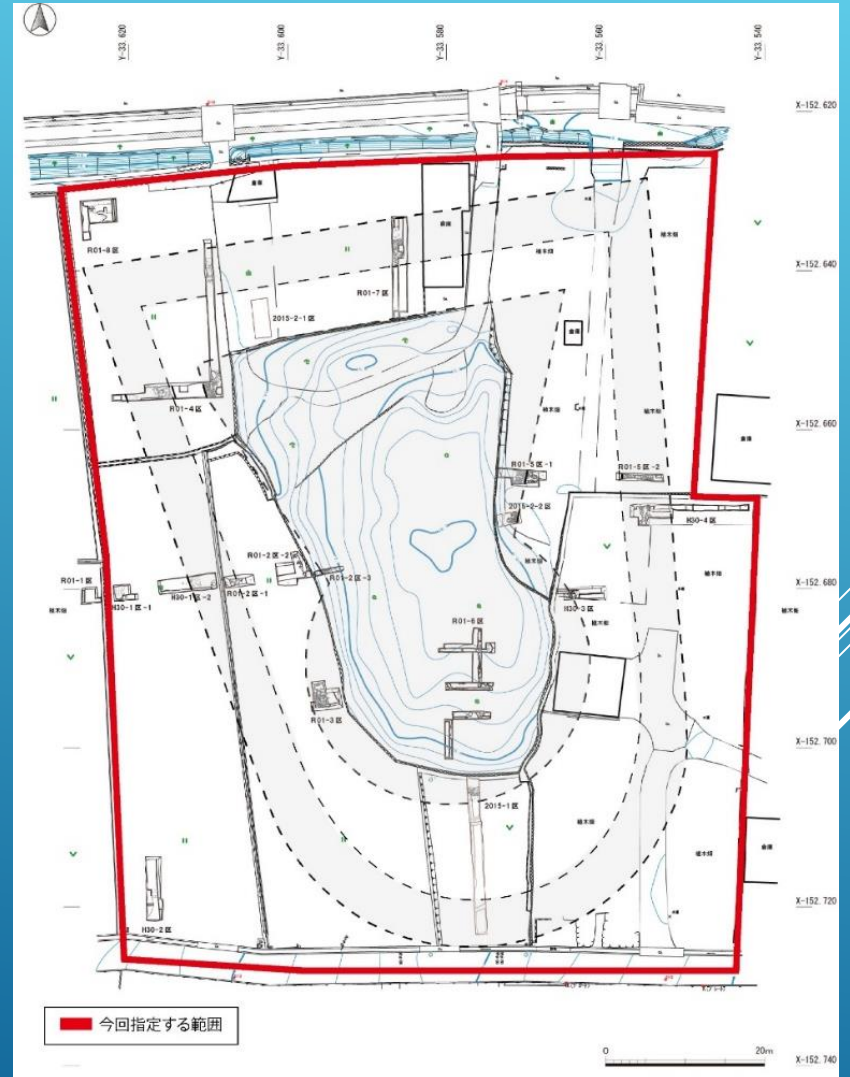
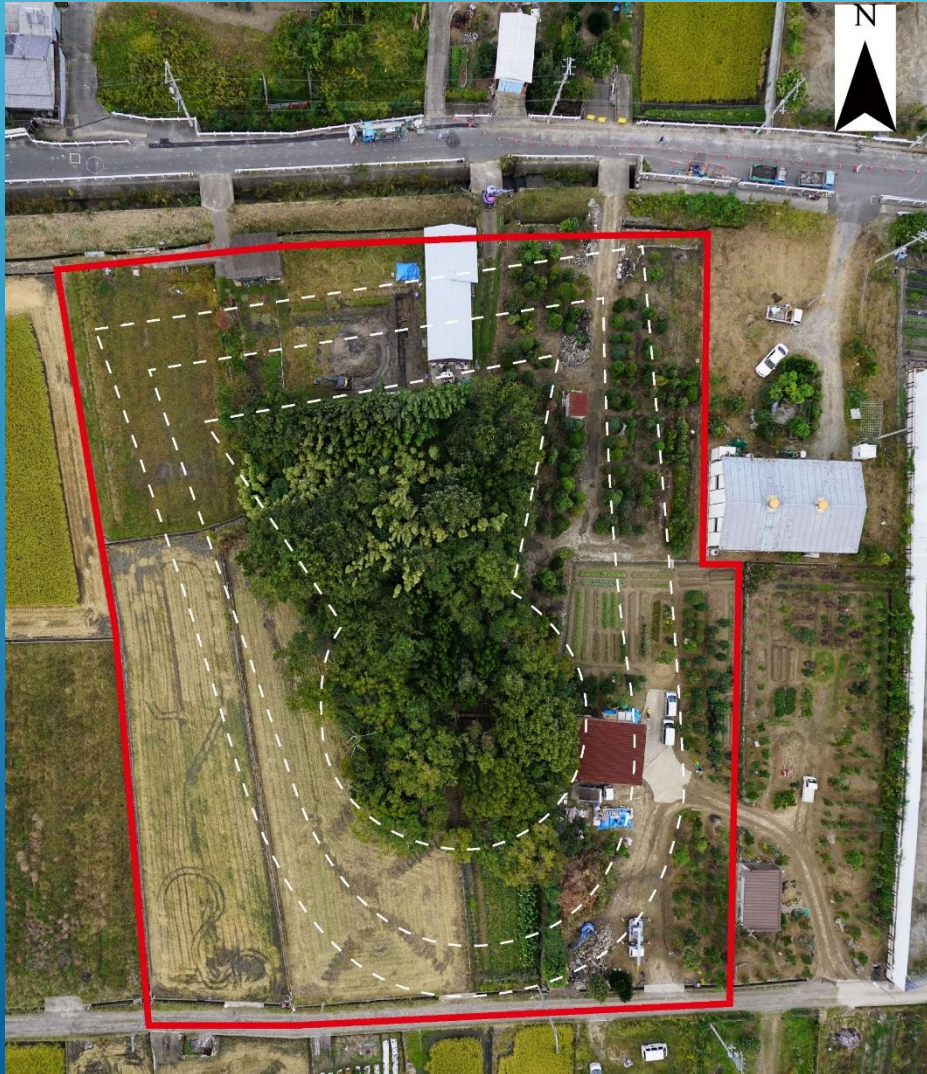
○埋葬施設(粘土槨)に示された評価
「土で覆われた埋葬施設の選択」
＝高安山麓を治めた人物の評価

墳丘規模と粘土槨の複数埋葬の類似

百舌鳥大塚山古墳(全長168m・粘土槨)

◎百舌鳥・古市古墳群の被葬者とともに河内平野
の発展に貢献した高安山麓の首長

③中河内最後の前方後円墳 郡川西塚・東塚古墳





- 全長約62m超（2段築成）
- ・ 北側が前方部・南側が後円部
（心合寺山古墳と逆向き）
 - ・ 墳丘斜面に葺石（列状）
 - ・ 墳丘の周囲に盾形の周濠

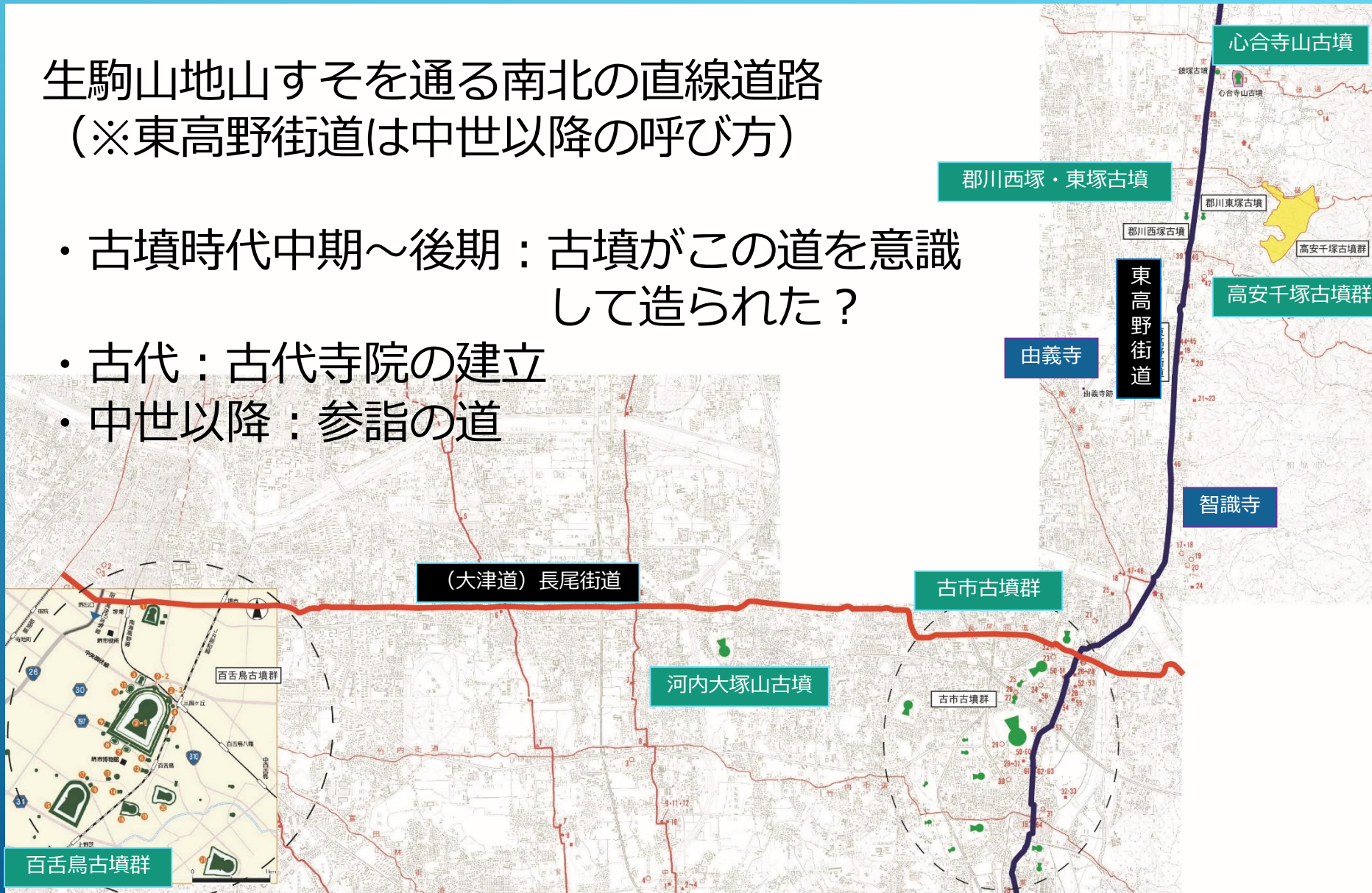
郡川西塚古墳の発掘調査



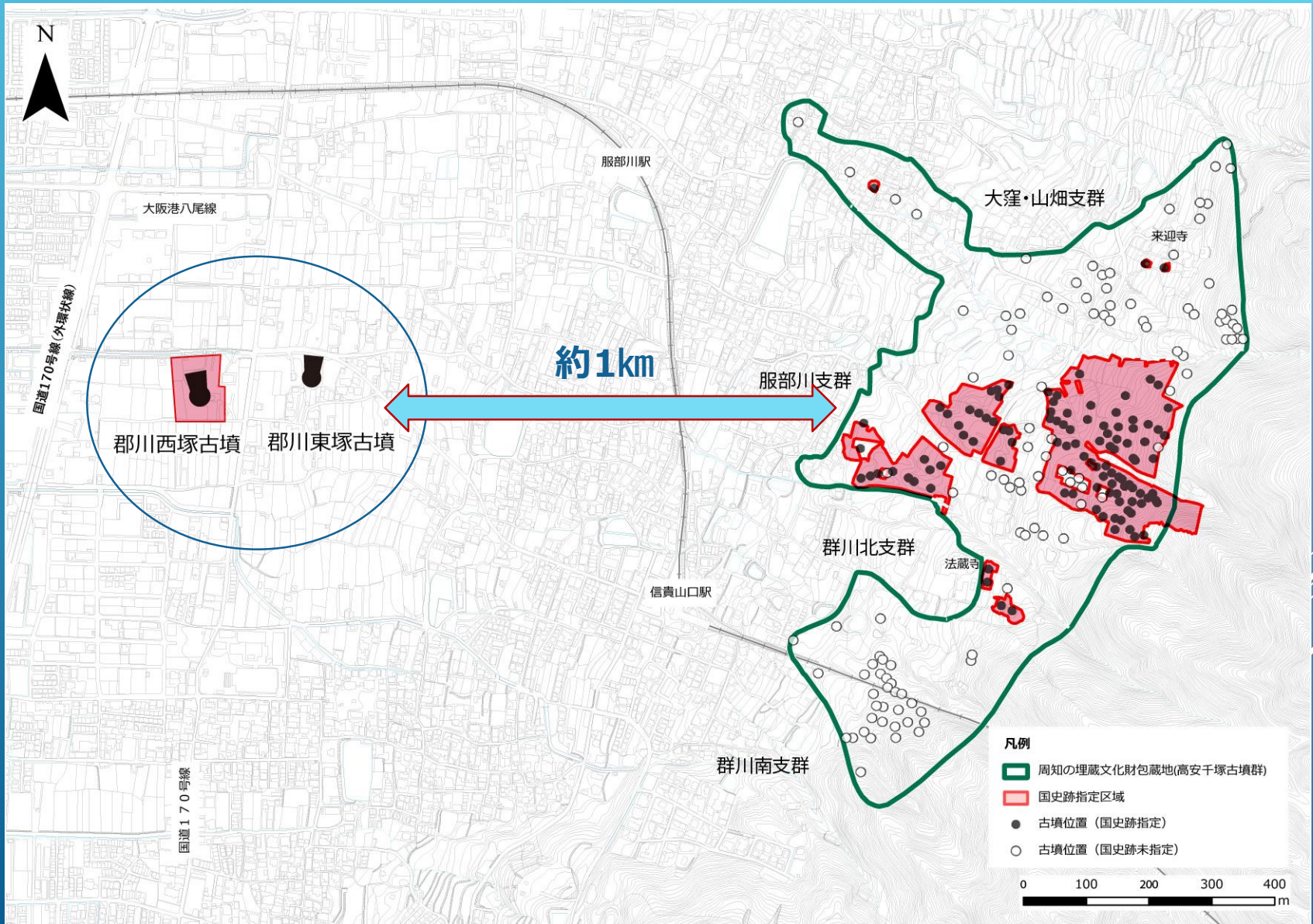
郡川西塚古墳と東高野街道

生駒山地山すそを通る南北の直線道路
(※東高野街道は中世以降の呼び方)

- ・ 古墳時代中期～後期：古墳がこの道を意識して造られた？
- ・ 古代：古代寺院の建立
- ・ 中世以降：参詣の道



高安千塚古墳群から見える前方後円墳



近接して造られた郡川西塚・東塚古墳



相次いだ石室の開口

- ▶ 東塚：明治30年
(1897)
- ▶ 西塚：明治35年
(1902)

・石室内の副葬品が
持ち出される。

◎ 出土した須恵器の
時期から、西塚が先
行して築造。

郡川西塚古墳の横穴式石室の姿

昭和9（1934）年 梅原末治聞き取り図

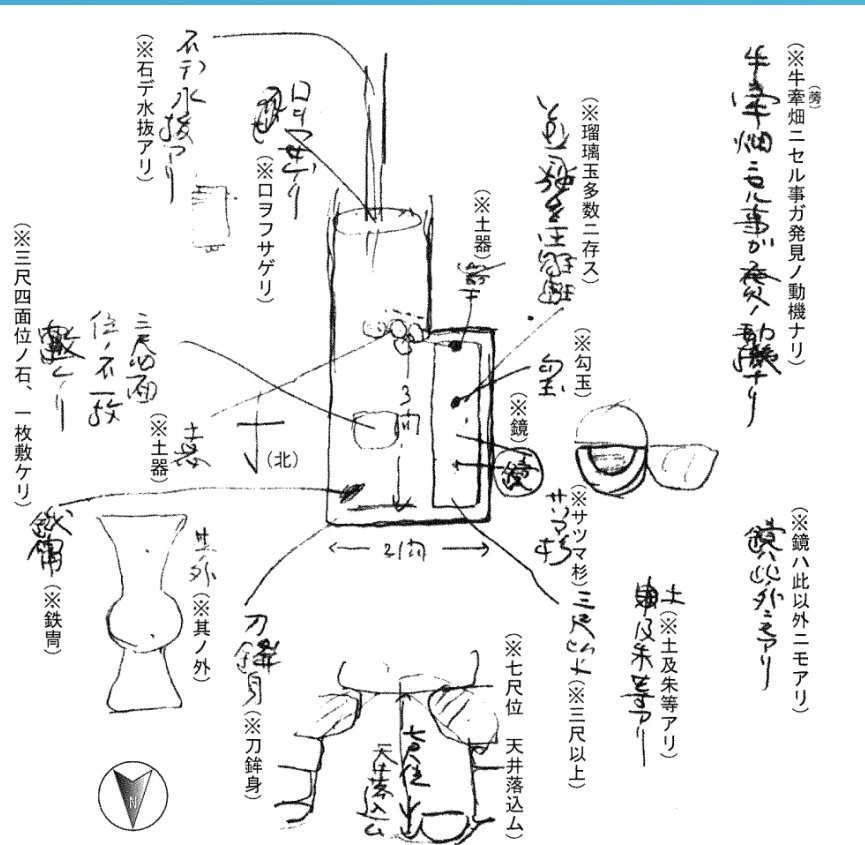
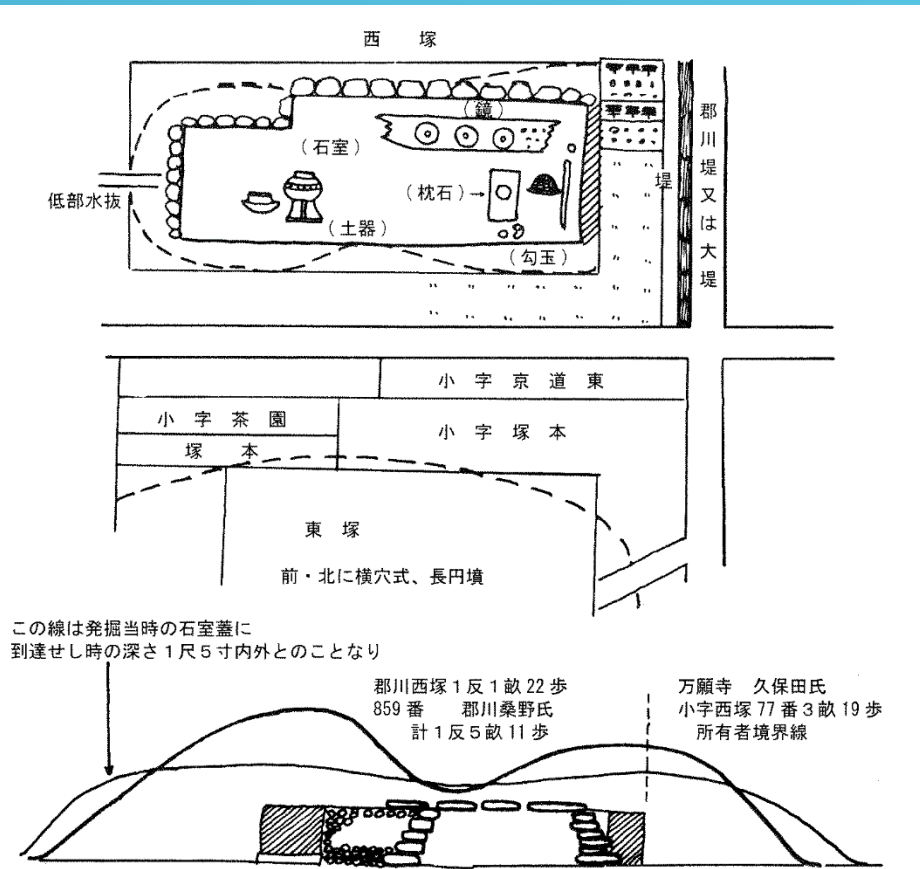


図579 昭和9（1934）年梅原末治氏聞き取り図による郡川西塚古墳の石室状況
(原図 公益財団法人東洋文庫所蔵梅原考古資料・※カッコ内に注記を付し、方位を入れた。)

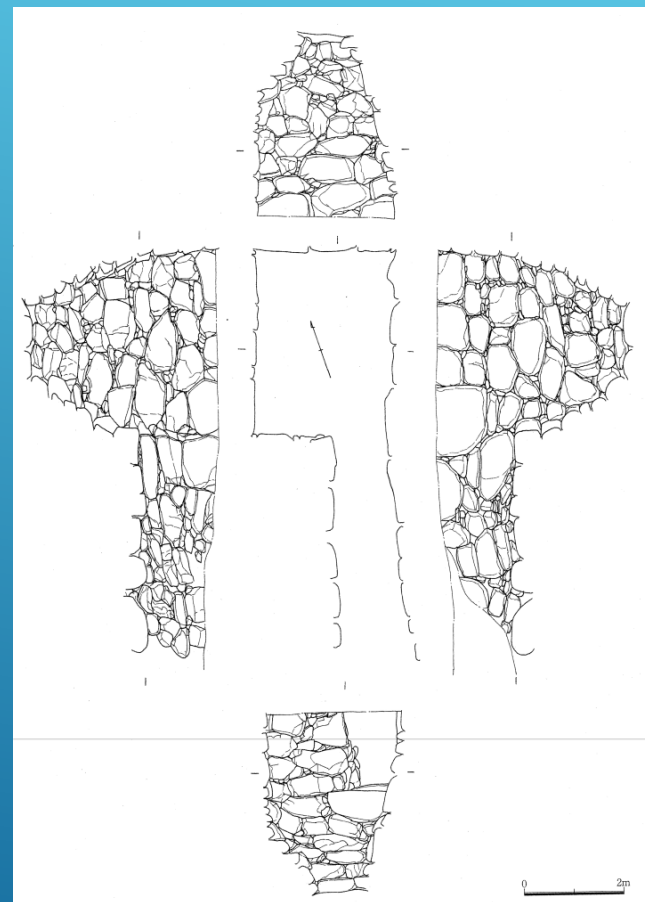
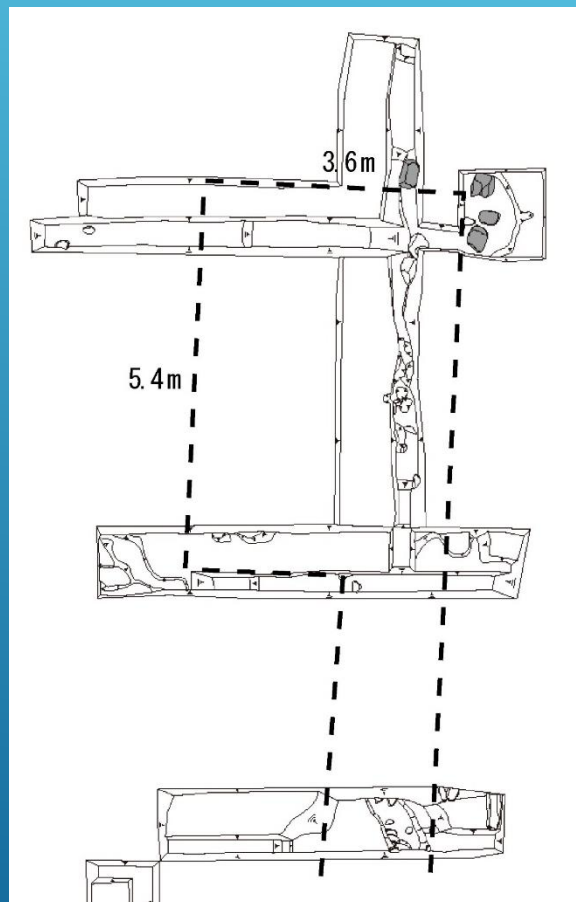
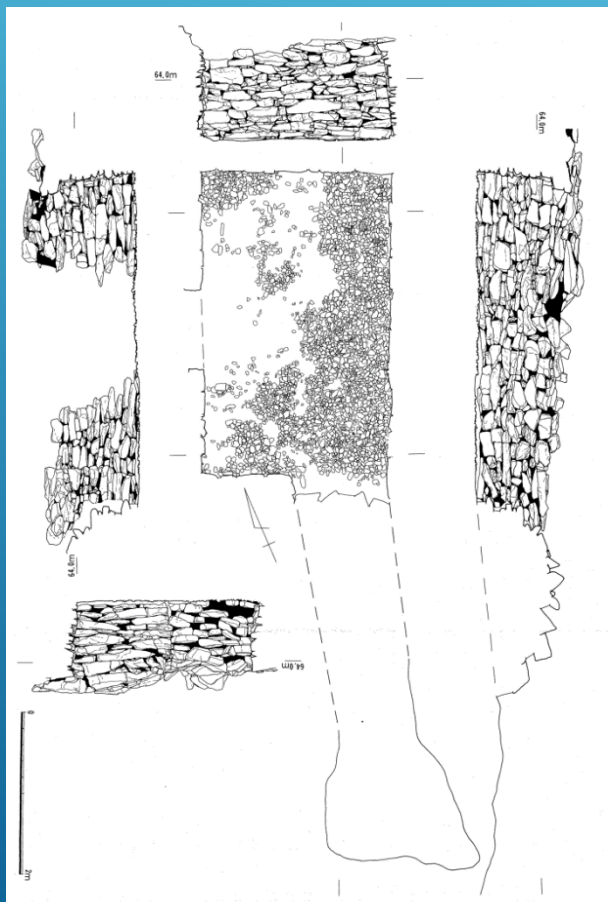
昭和16（1941）年 清原得巖聞き取り図



高安村郡川西塚古墳横断想像図 昭和16年11月3日作成
図581 昭和16(1941)年清原得巖氏聞き取り図 [『大阪文化誌』1976から転載・一部加筆]

横穴式石室の導入

— 中河内の初期横穴式石室 —



柏原市・高井田山古墳

郡川西塚古墳

高安千塚・郡川16号墳

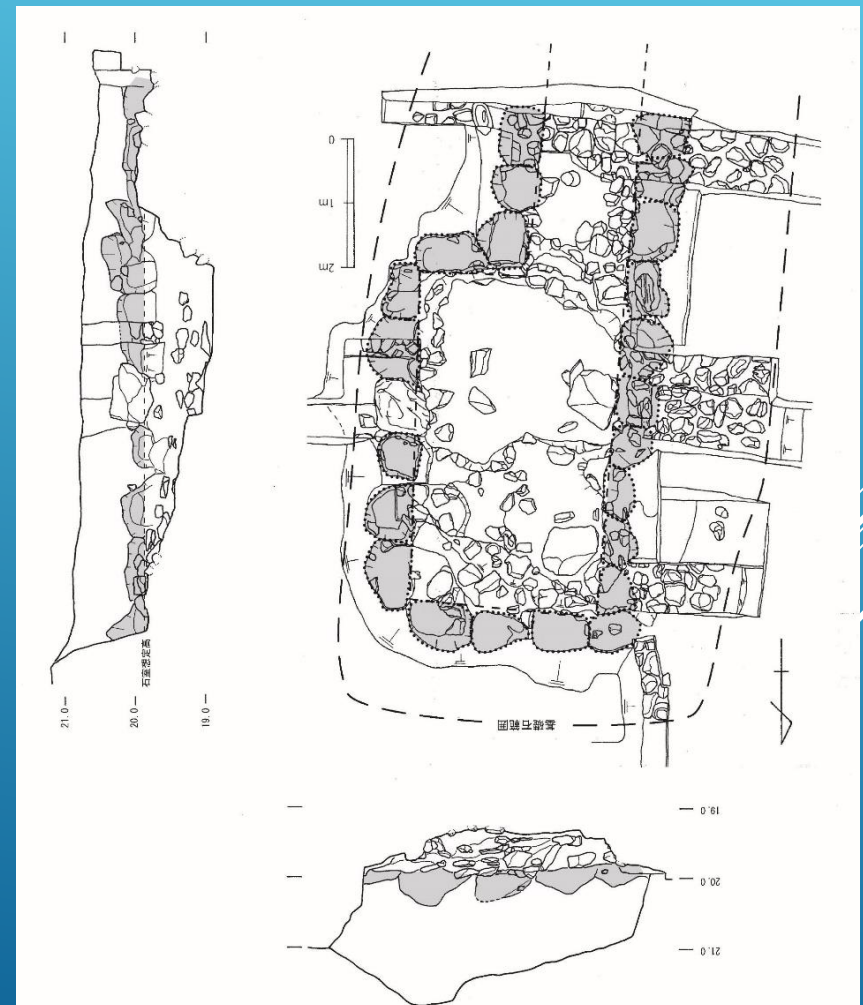
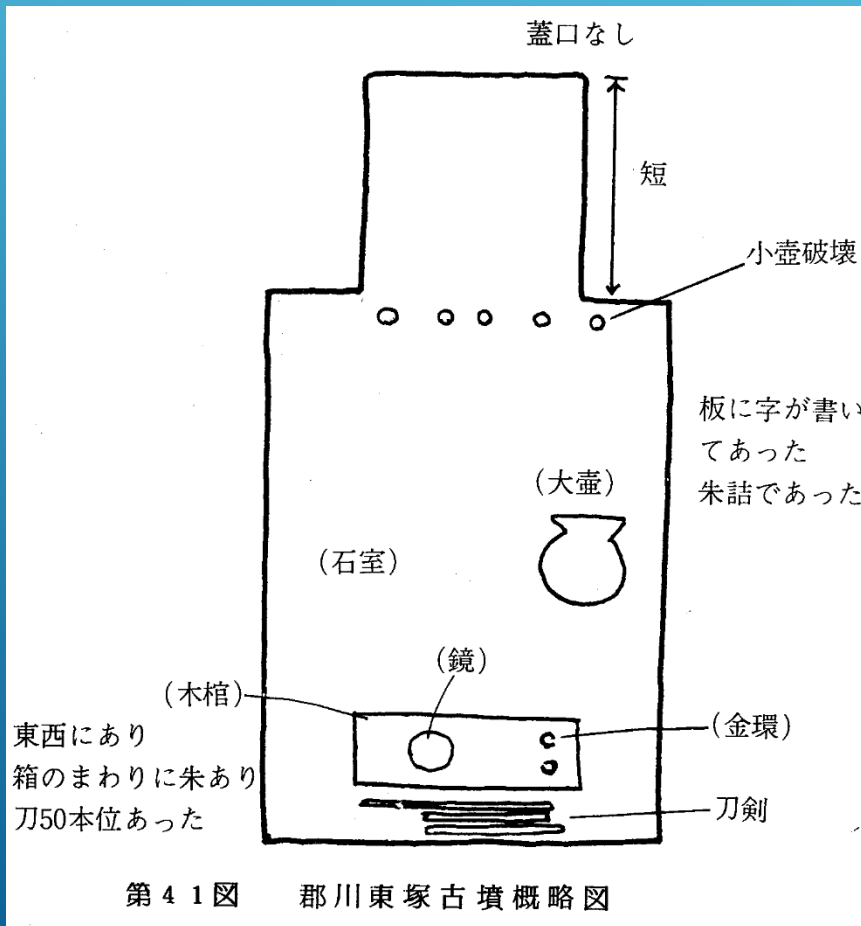
郡川東塚古墳の横穴式石室の姿



郡川東塚古墳の横穴式石室の復元 — 畿内型石室 —

昭和16（1941）年 清原得巖聞き取り図

発掘調査による復元図：
玄室長5.1㍍・幅3㍍の左片袖式石室



副葬品の内容 – 被葬者像を考える手がかり –

[郡川西塚古墳の主な副葬品]

- ・ 神人歌舞画像鏡 (※)
変形四獣鏡を含む3面以上
※ 癸未年の隅田八幡宮所蔵鏡の原形鏡
- ・ 銀製垂飾付耳飾り
- ・ 須恵器 (TK47-TK10型式)



[郡川東塚古墳の主な副葬品]

- ・ 画文帯神獣鏡1面
(国重要美術品・昭和10年指定)
- ・ 挂甲小札、馬具類
- ・ ガラス玉・玉・土製品
- ・ 須恵器 (MT15-TK10型式)



中河内最後の前方後円墳・郡川西塚・東塚古墳の評価

- 古墳時代後期の近畿地方の前方後円墳では、大王級に次ぐ規模
(大和の物部氏の墓域・天理市杣之内古墳群に準じる規模)

古市古墳群の主な後期の前方後円墳

- ・高屋城山古墳（安閑陵）122m
- ・白髪山古墳（清寧陵）115m
- ・峯ヶ塚古墳 96m
- ・高屋八幡山古墳（安閑皇后陵）85m

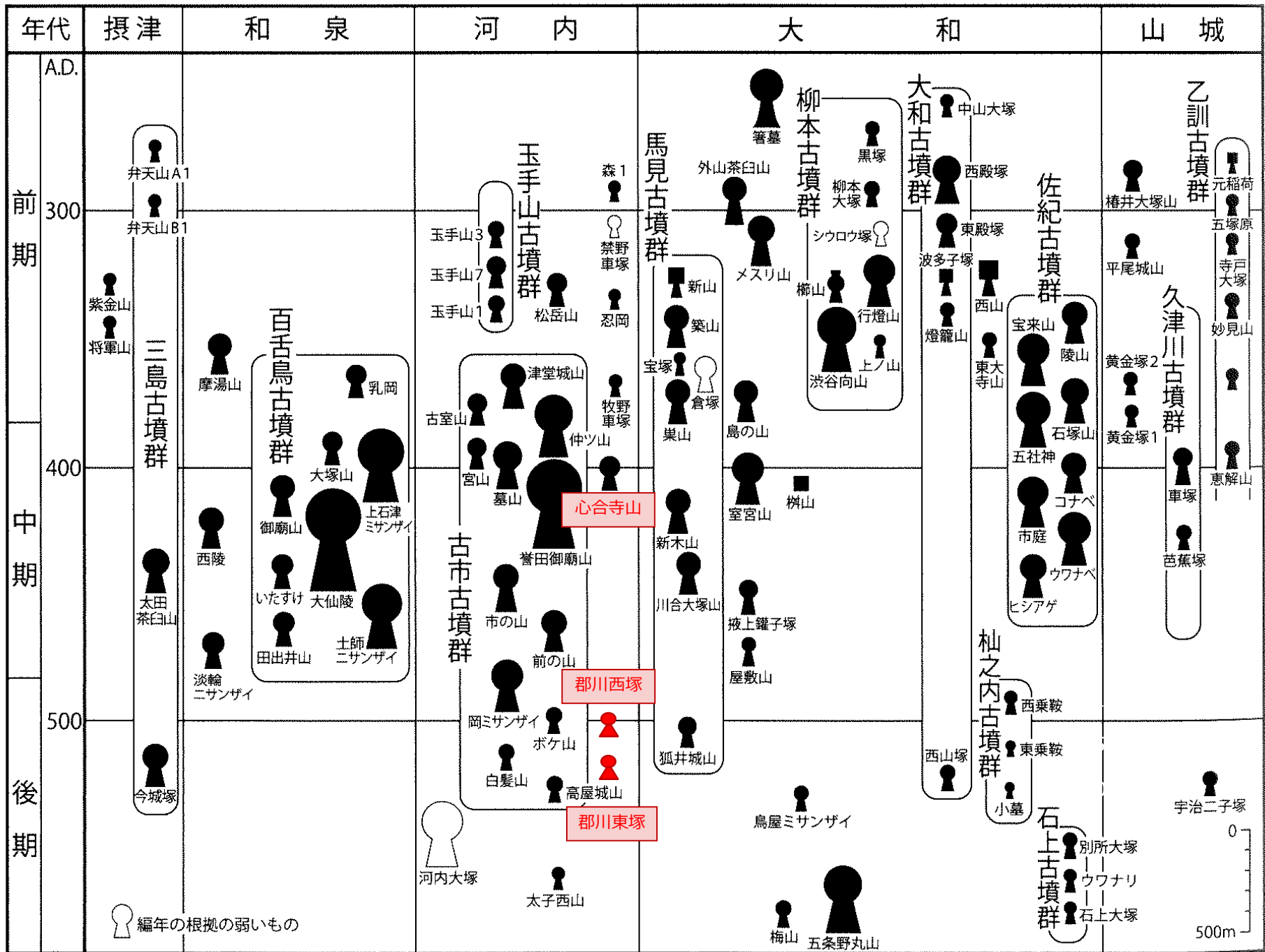
その他有力な後期の前方後円墳

- ・今城塚古墳（三島古墳群・高槻市） 190m
- ・河内大塚山古墳 335m

※百舌鳥古墳群は後期の前方後円墳はない。

- 新技術による**横穴式石室**の導入と**渡来系文物**の副葬

◎**新王権（継体大王）と結びついた新進の首長**



④河内平野をのぞむ大型群集墳 －高安千塚古墳群－



郡川西塚・東塚古墳から高安千塚古墳群へ

「中河内最後の前方後円墳」の築造を契機として、「大型群集墳」の高安千塚古墳群の造墓が始まる。

高安千塚古墳群の特徴

高安山麓の自然の中、標高約60～180メートル前後に、横穴式石室を埋葬施設とする6世紀代（約100年間）に造られた200基以上の小円墳が良好な状態で残る。

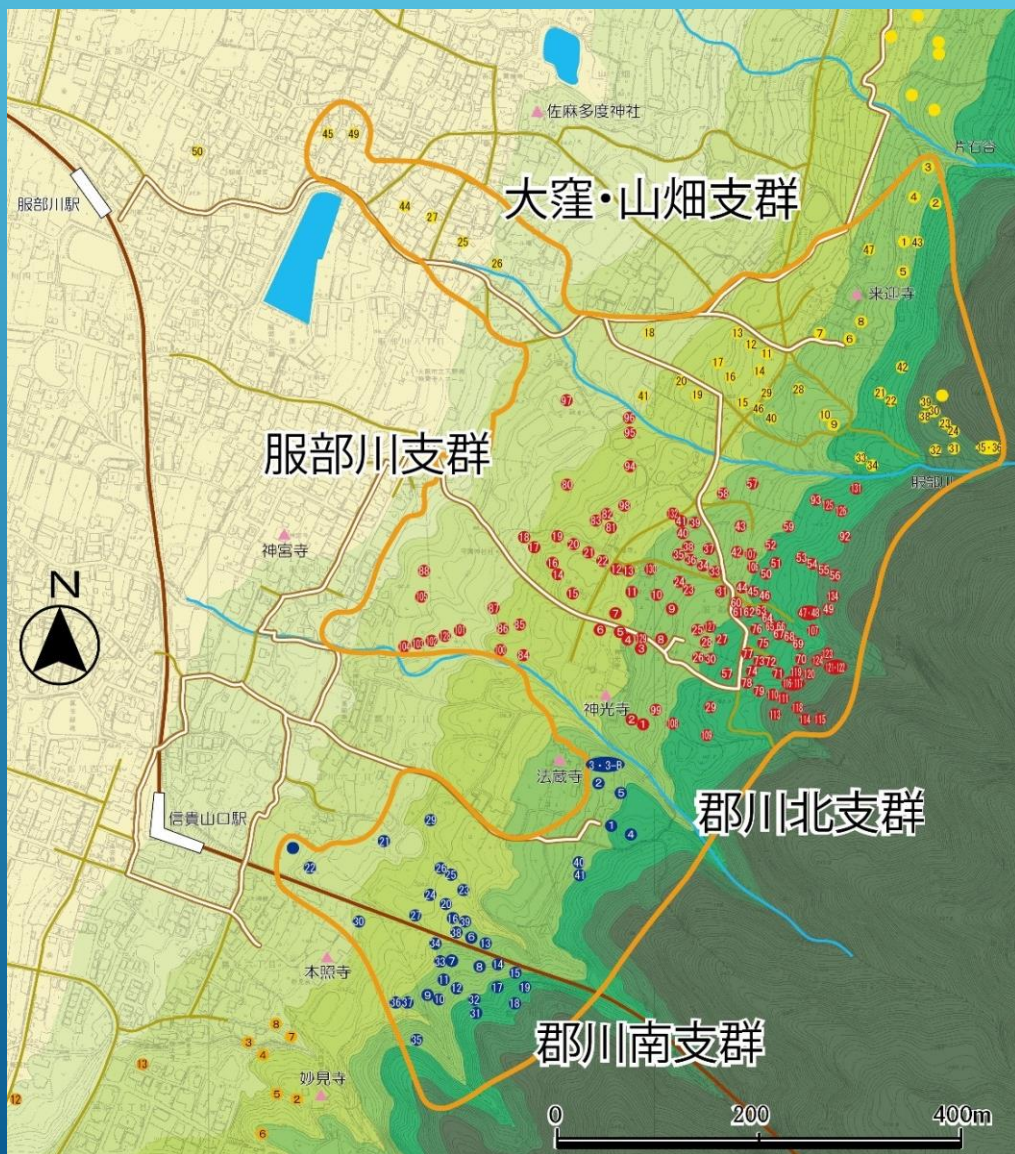
- ▶ 古墳群のはじまり（6世紀前半）：「ドーム状天井の石室」や「韓式系土器・ミニチュア炊飯具」などの渡来系集団との関わり
- ▶ 最盛期（6世紀後半）：大型の横穴式石室が数多く造られた。

⇒河内平野に住んでいた渡来系の有力集団の群集墳

- ▶ 江戸時代から知られ、明治時代にE.S.モースやW.ガウランドなど著名な外国人研究者が現地調査に訪れ、研究成果が海外に紹介されるなど、日本考古学史を考える上で重要。

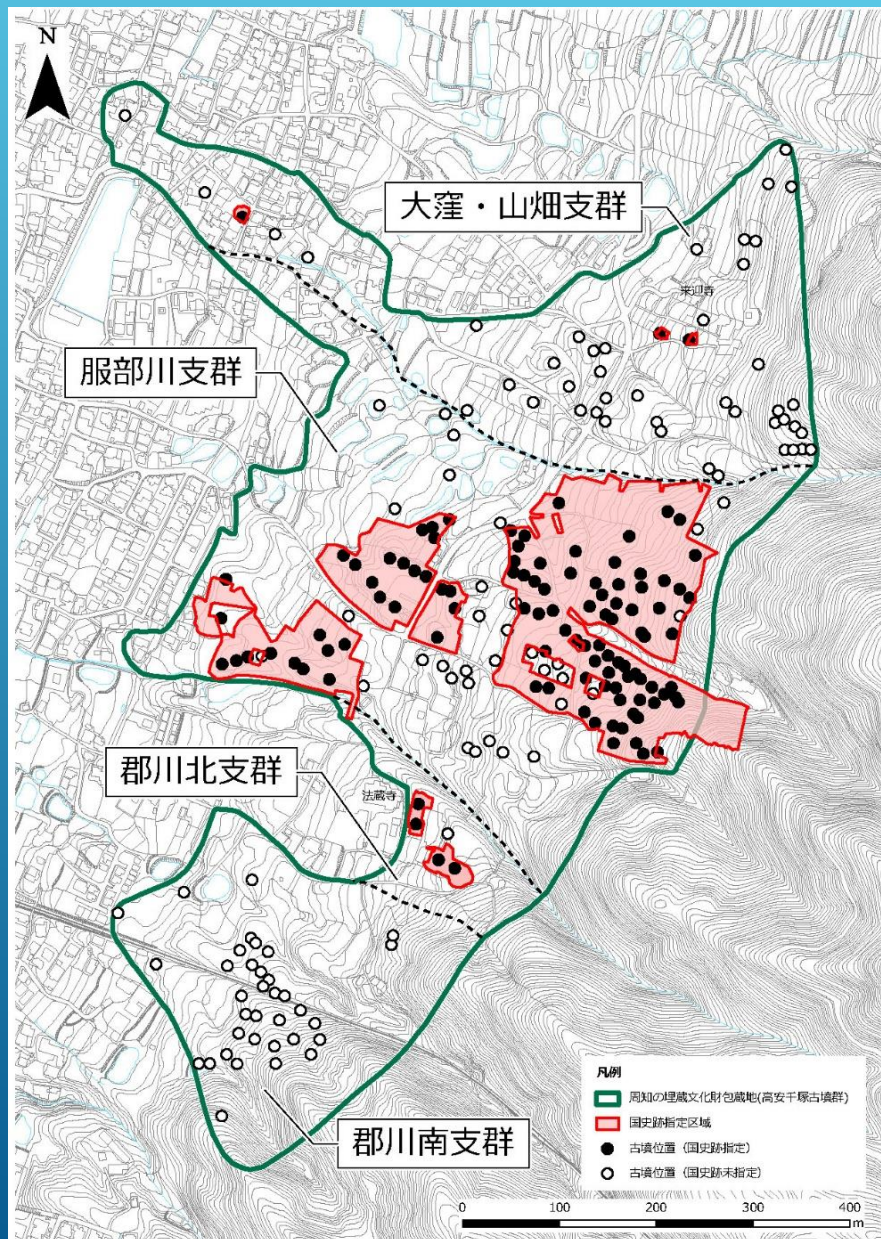
⇒古くから「千塚（せんづか）」と呼ばれてきた。

高安千塚古墳群の構成



古墳群名	支群・地区名	後期古墳数	主な古墳
高安千塚古墳群	大窪・山畑支群	50 (国史跡3・市史跡1)	大窪・山畑7号墳 (抜塚)
	服部川支群	230 (国史跡102・市史跡1)	服部川25号墳 (二室塚古墳)
	郡川北支群	6 (国史跡5)	郡川1号墳 (開山塚古墳)
	郡川南支群	37	郡川16号墳 郡川11号墳
高安古墳群	楽音寺地区	5	大石古墳 核山古墳
	大竹地区	0	
	神立地区	8	愛宕塚古墳 芝塚古墳
	水越地区	0	
	千塚地区	0	
	大窪・山畑北地区	14	ドルメン古墳 すえの森古墳
	服部川地区	2	二階塚上墳 二階塚下墳
	郡川地区	2	郡川西塚古墳 郡川東塚古墳
	郡川東地区	2	郡川東1号墳 郡川東2号墳
	教興寺西地区	2	寺池1号墳
	黒谷地区	26	黒谷10号墳
	垣内・教興寺地区	23	垣内・教興寺 1～3号墳
	教興寺東地区	0	
	恩智・神宮寺地区	13	
高安山古墳群	3	高安山1～3号墳	
合計		330	

国史跡の指定範囲



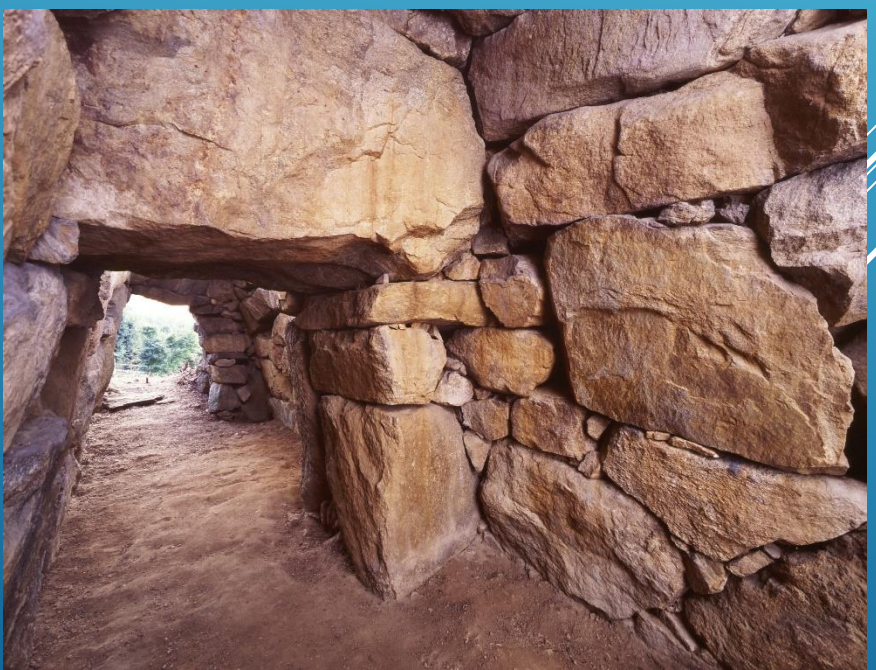
平成27年3月10日 国史跡指定
令和3年10月11日 追加指定

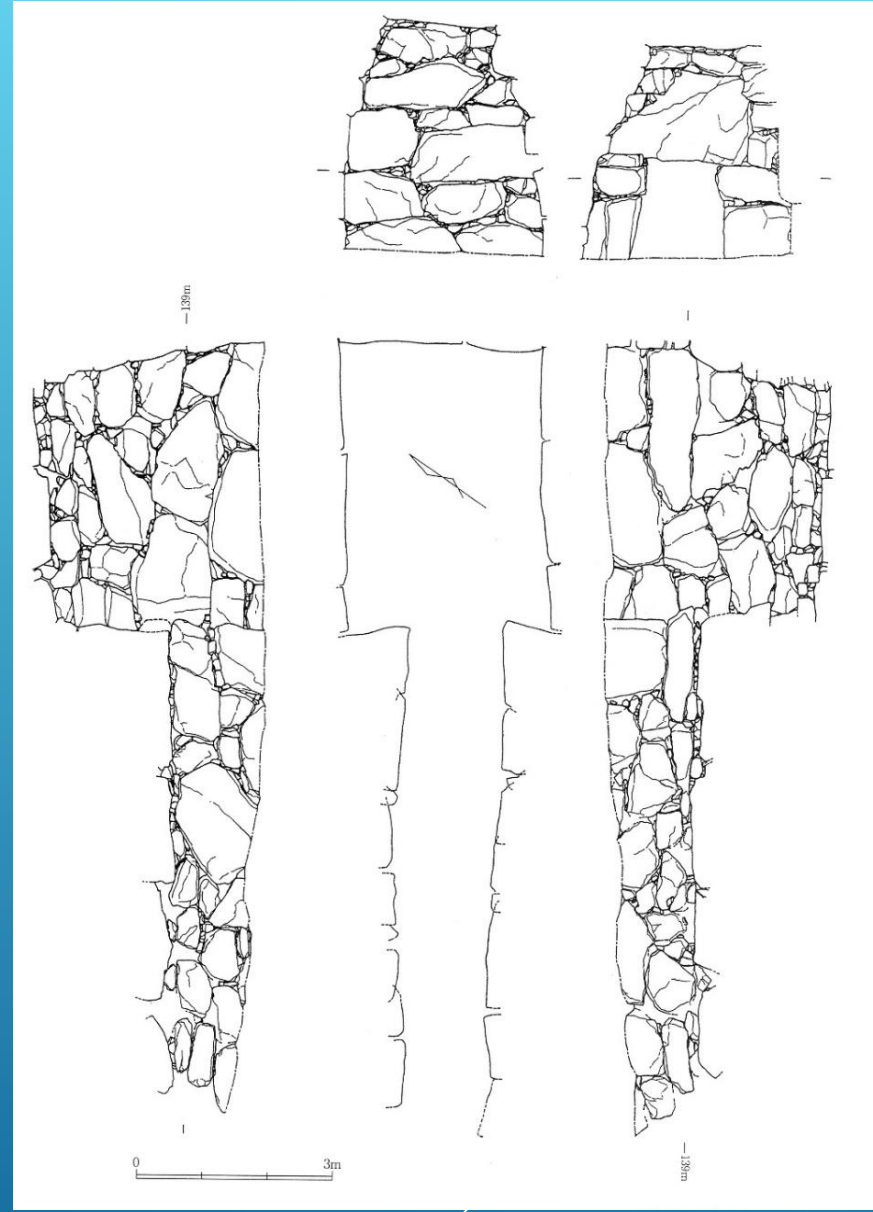
[指定範囲の内訳]

	古墳数	指定面積	主な古墳
	(基)	(㎡)	
大窪・山畑支群	3	334.40	大窪・山畑7号墳(抜塚)・27号墳(俊徳丸鏡塚)
服部川支群	102	64,733.16	服部川7号墳ほか
郡川北支群	5	1,819.83	郡川1号墳(開山塚)ほか
郡川西塚古墳	1	8,095.40	
合計	111	74,982.79	



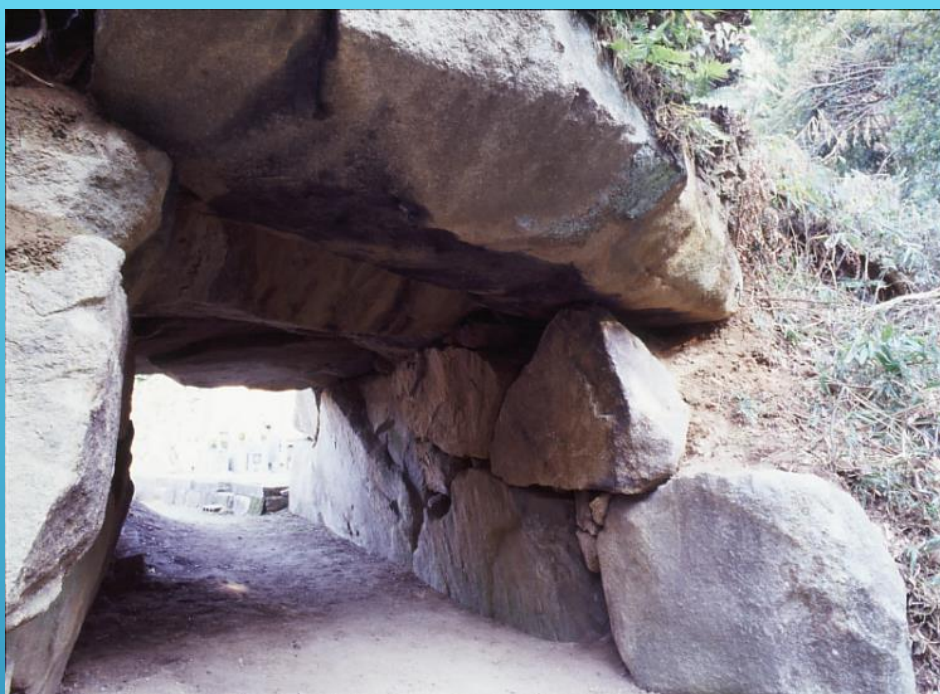
渡来系集団の新たな技術や文化





古墳群最大級の横穴式石室 開山塚古墳(郡川1号墳)

近畿地方有数の有力集団に成長



高安千塚古墳群がたどる歴史Ⅰ 安土・桃山時代

－大坂城の築城と古墳の破壊－

「千塚」の名が残る最も古い古文書によると、豊臣秀吉の大坂城築城のため、石材を運び出した場所となり、たくさんの古墳が壊されたことが記されています。



秀吉時代の大坂城の石垣

高安千塚古墳群がたどる歴史Ⅱ 江戸時代

－観光のはじまり－

「河内名所図会」 (享和元年・1801)

千塚 千塚村、服部川村、及、法蔵寺山内に多し。…(省略)… 数の多きによりて、千塚と呼ぶ。いづれも南向にして、窟中より陶器の品類、あるひは、金環、鉄針、鍊石の類出る。



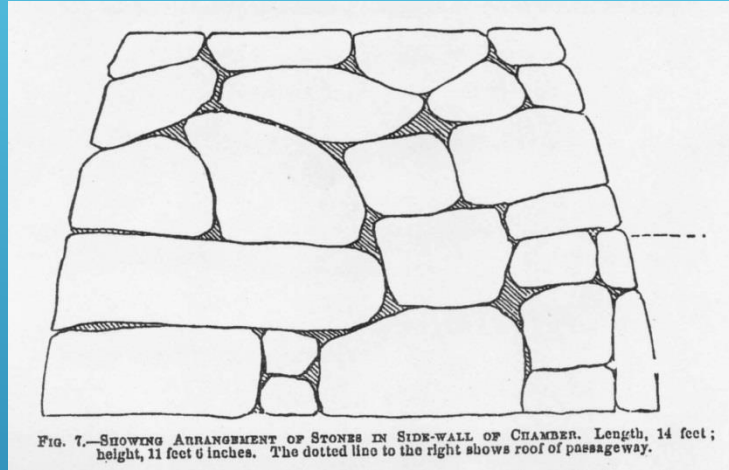
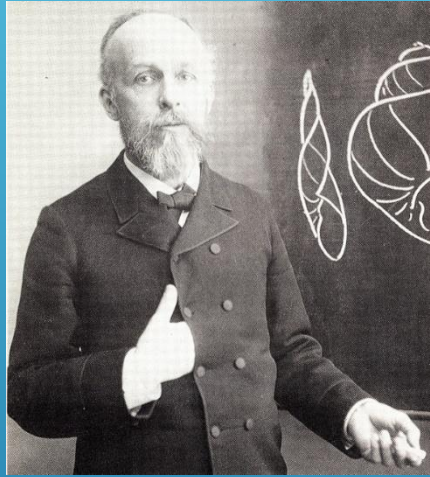
古墳群での乱掘

河内名所図会に描かれた 高安千塚古墳群（郡川北支群）と郡川東塚古墳

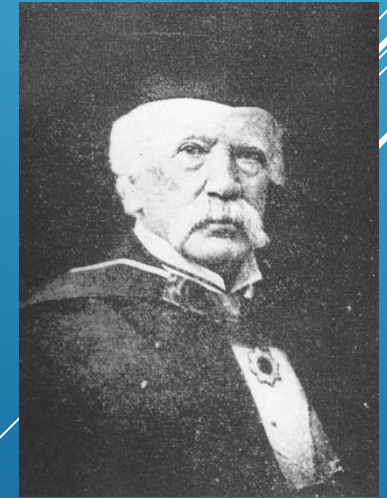
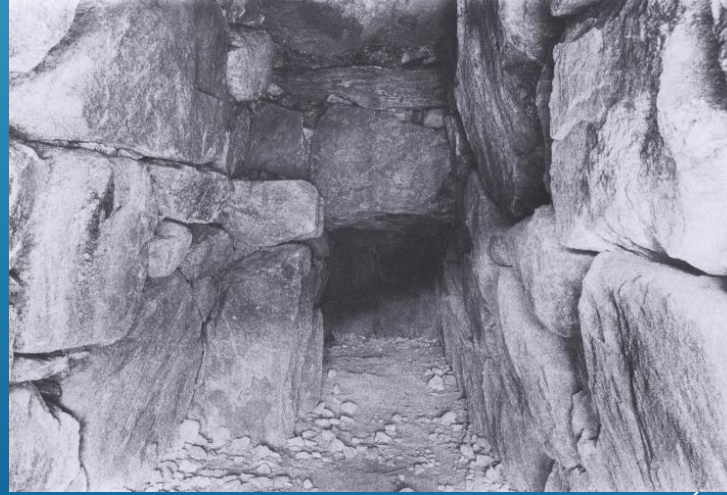


高安千塚古墳群がたどる歴史Ⅲ 明治時代

－外国人研究者の来訪－



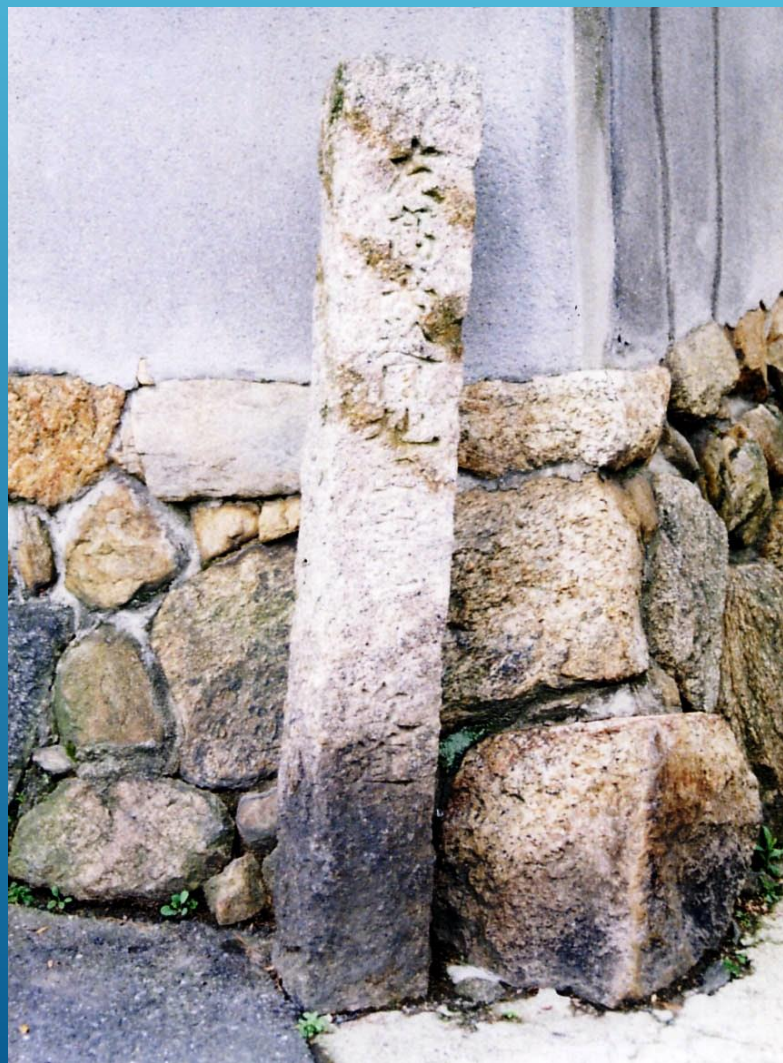
モースがスケッチした服部川7号墳



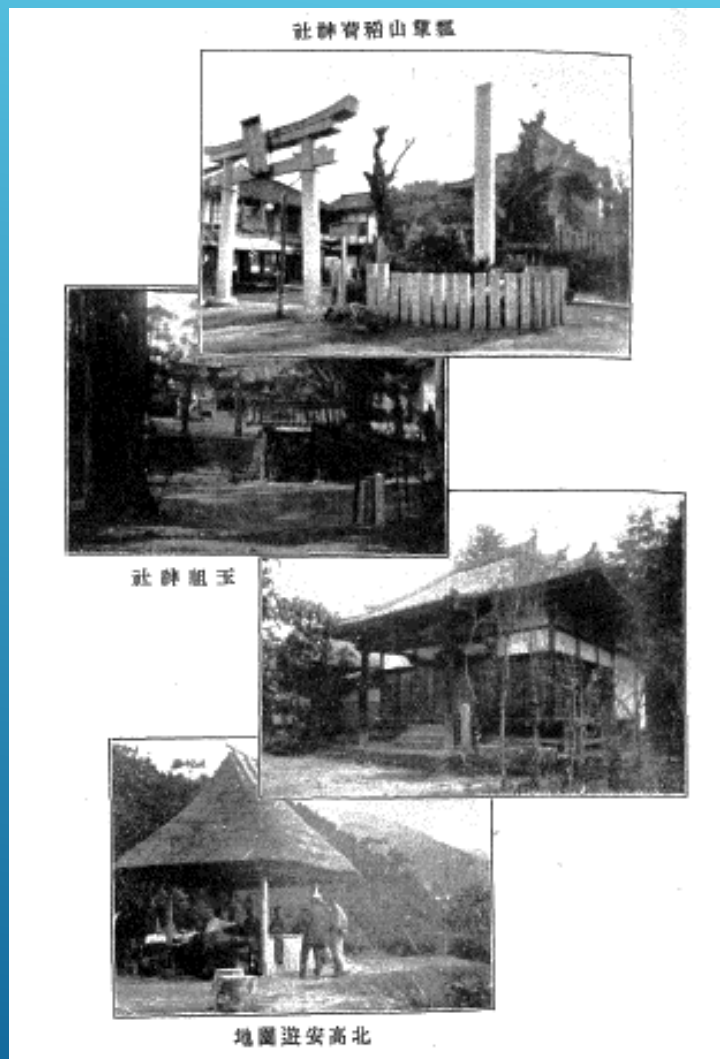
ガウランドが撮影した二室塚古墳

高安千塚古墳群がたどる歴史Ⅳ 大正・昭和時代

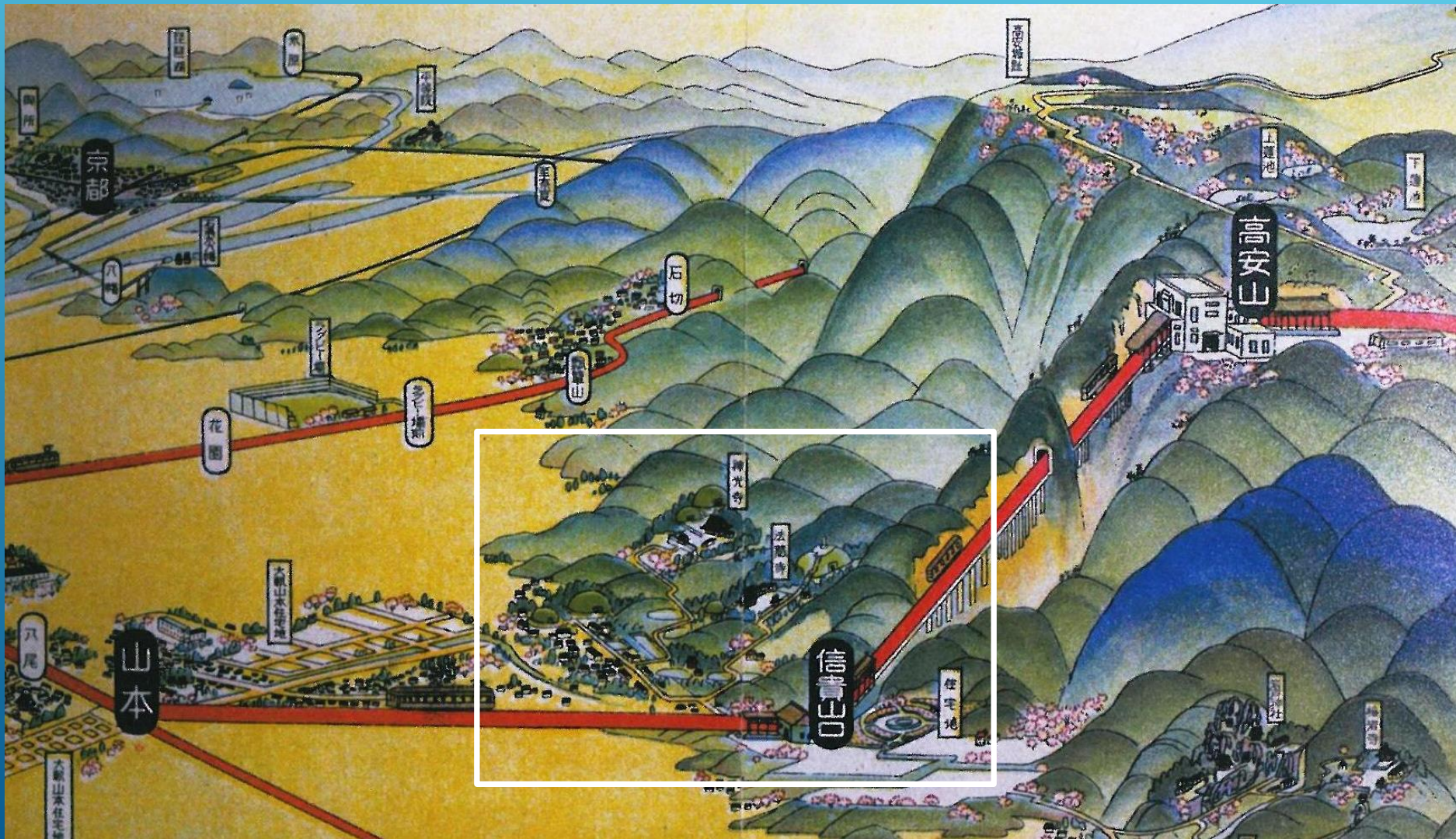
－観光地となった千塚－

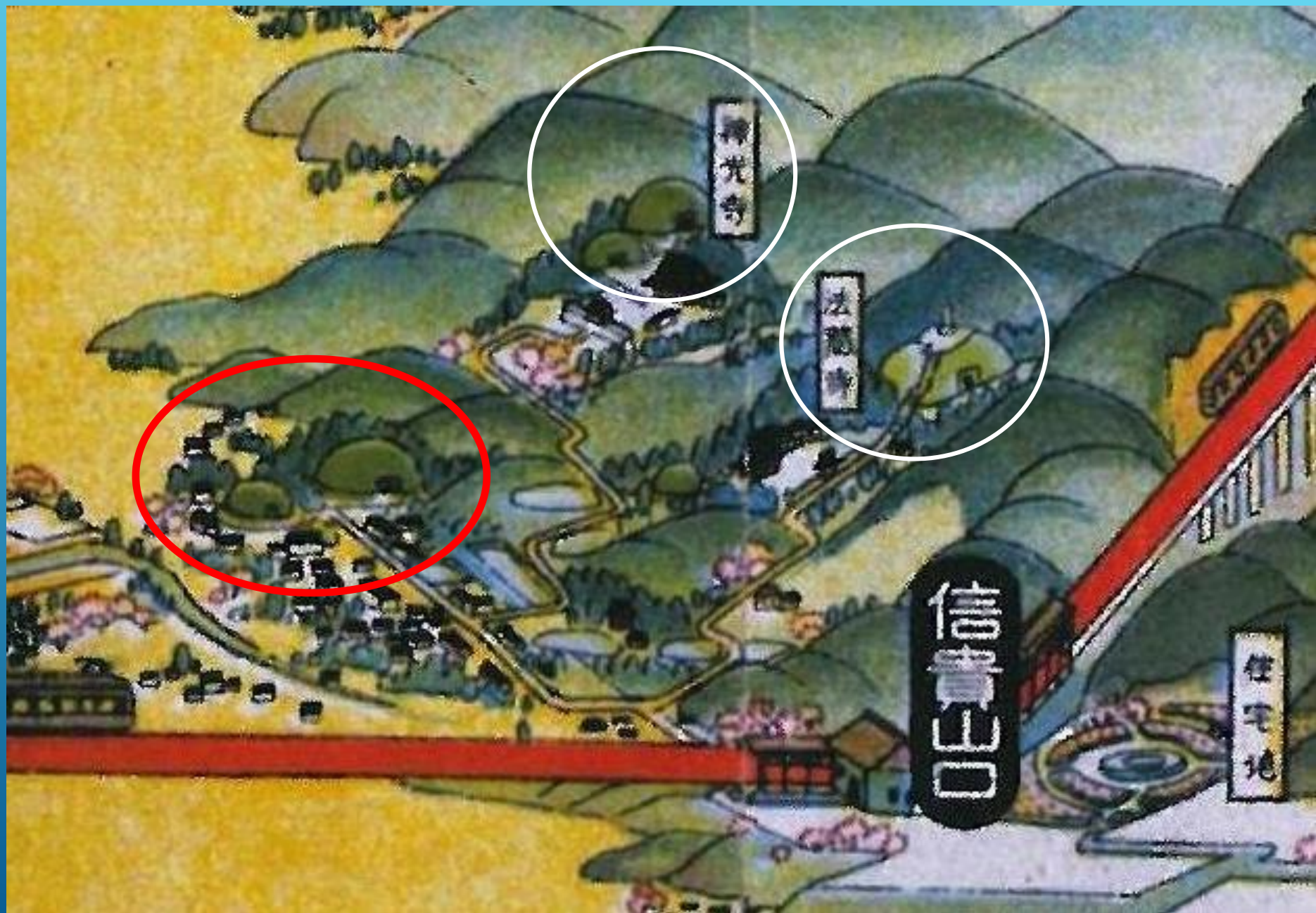


「左 高安遊園地 四千年前穴居跡 徒歩近道」



— 吉田初三郎が描いた郡川西塚・東塚 —
「信貴山名所図会（昭和5年・1930）：信貴山電鉄」





神光寺

法華寺

信貴山

住宅地



高安千塚古墳群における活用

古墳散策ハイキング



石室写真撮影会



市民ボランティアによる古墳の掃除



市民ボランティアによる見学ルートを検討

⑤大阪府下最大級の横穴式石室 － 愛宕塚古墳 －

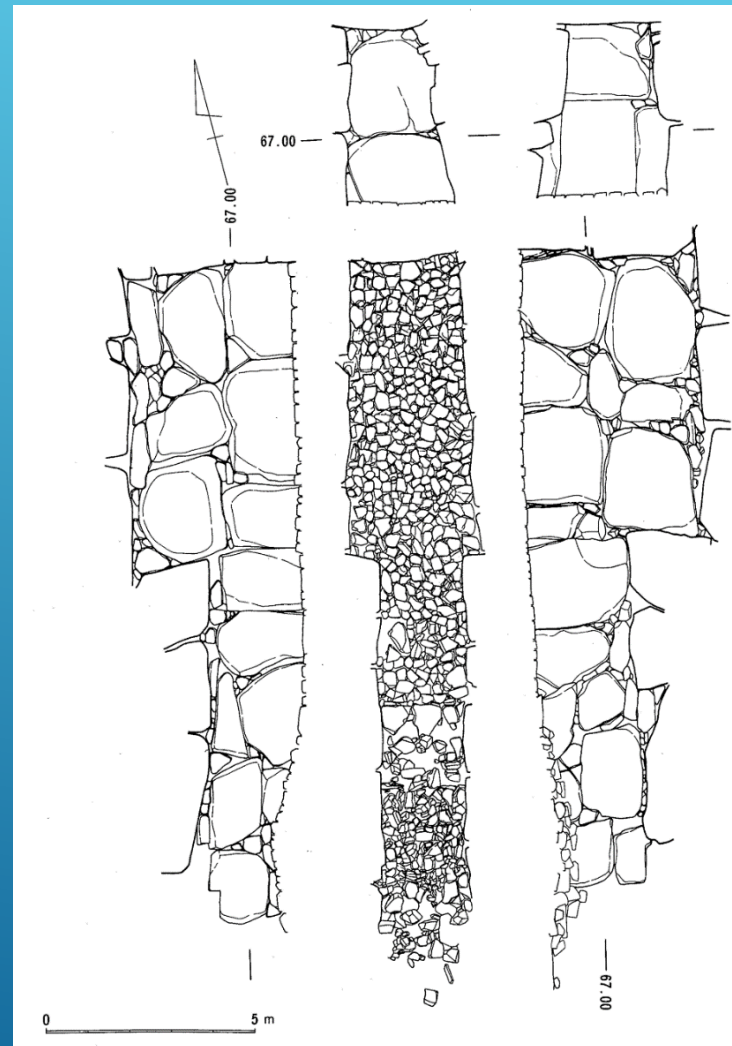
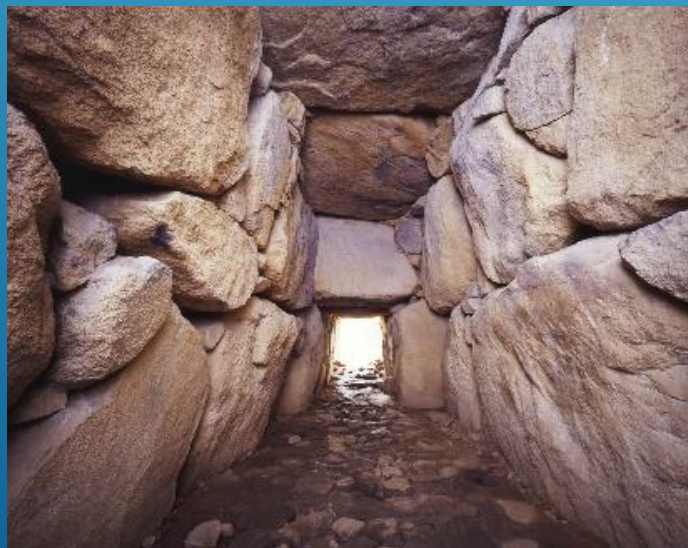
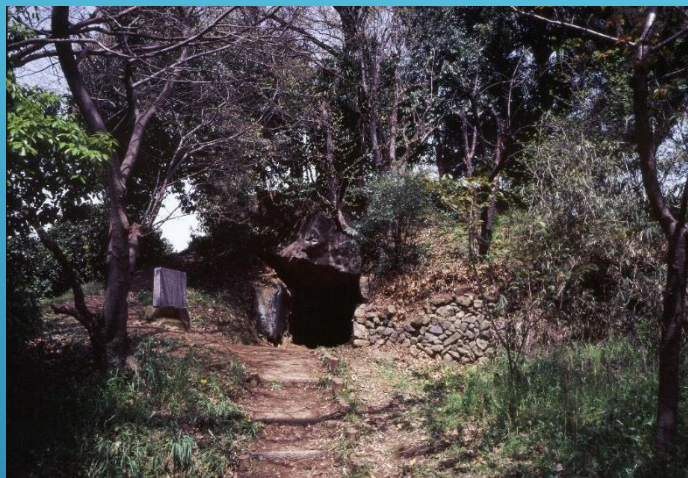
平成4年3月31日
府指定史跡

石室：全長15.7m
玄室面積：21.7㎡

大和の有力古墳
(天理市塚穴山古墳・御所市條ウル
神古墳など)の石室と同等規模

墳丘は、現状直径
22.5mの円墳だが、
30m以上に復元。

河内の物部氏の墓
とする説も。



おわりに －高安山麓の古墳の保存と活用－

平成17年度に復元整備された**心合寺山古墳**を出発点として、高安山麓の古墳の保存と活用を広げていきます。

平成26年度に国史跡になった**高安千塚古墳群**については、市民と連携して活用を進めています。

今年度、追加指定された**郡川西塚古墳**や、平成30年に新たに国史跡になった称徳天皇と道鏡ゆかりの**由義寺跡**をふくめた史跡な活用を進めていきます。

参考：服部川支群の古墳

